

車体NEWS

JAPAN AUTO-BODY INDUSTRIES ASSOCIATION INC.

SUMMER 2008 夏

CONTENTS

巻頭言	1
特集	
2008年度通常総会開催	3
NEWS特集	15
・欧州における建機運搬用トレーラ・特装車の後面灯火器の 取付実態を調査	
NEWS FLASH	
本部だより	16
部会だより	17
支部だより	19
官公庁だより	20
我が社の元気人	24
部会・委員会紹介	第10回 中央業務委員会 25
Net Work	vol 53 株式会社イスマ車体製作所 27
そこが知りたい	第4回 29
Coffee Break	31
HOBBY LIFE	33
DATA BOX	車体生産台数 2008年1月～3月 34
	2007年度車体生産台数
編集後記	43



URL: www.jabia.or.jp/ E-mail: info@jabia.or.jp



巻頭言

2008 年度 総会挨拶

「会員企業の繁栄」を念頭に

一層役立つ車体工業会を目指して

車体工業会の会長を務めております久保地でございます。

本日は、社団法人日本自動車車体工業会の第38回通常総会を開催するにあたって会員の皆様方にはかくも多数ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

さて日本経済は昨年後半から、サブプライムローン問題に端を発した米国金融不安、原油や原材料の高騰、円高の進行などにより急減速してしまい、国内自動車登録は343万台と33年前のレベルにまで落ち込んでしまいました。特に商用車に関しては、NOx・PM法による代替需要が終了したため普通貨物車は18%減の16万6千台、うち中大型貨物車は19%減の8万5千台となっています。

なお、当会会員の生産台数をみますと前年度比で約4%増の281万台強と3年連続で増加しましたが、増加のほとんどは輸出の好調な小型の委託生産車となっており、当会特有の非量産車では14%減の18万台となっています。

当会の会員状況をみますと、昨年度は5社入会、4社退会と1社ではありますが、12年振りに増加させることができました。また会員カバー率に関しまして今年度再調査した結果、小型車の委託生産分を除いた正会員の売上げ高カバー率で94.3%と、日本の車体業界のほとんどをカバーできていることが確認できました。

このような中、昨年度、当会は

- (1) 非会員を含む不正な二次架装の根絶
 - (2) 環境対応自主取組みの推進
 - (3) 会員への支援サービスの向上
 - (4) 当会活動の活性化
- の4項目を重点活動として取り組んできました。

(1)「非会員を含む不正な二次架装の根絶」については、昨年度と同様に各地域単位での販売店合同研修会をはじめ、新聞や雑誌への広告掲載、各種パンフレットの作成等を実施し、会員以外を含めた業界全体への再徹底活動を進めてきました。その結果、上期の実態調査では課題として残っていた販売店営業マンからの改造要請も下期調査ではゼロとなり、やっと根絶できたと判断しております。

しかしながら業界全体での根絶の完全な定着のためには、もう少し活動を継続していく必要があると考えています。また会員企業が過去に関与した不正な二次架装車両の是正処置は、関係会員のご努力により、3月末で90%を越え、ほぼ終了させることができました。一部にお客様の特定困難な車両や、対応の遅れている販売会社もありますが、これは個別フォローを継続していくことにしております。

このように一部に長年の悪しき慣習として残っていました「不正な二次架装問題」と決別できたことは、たいへん喜ばしいことであり、対応

会長 久保地 理介
(トヨタ車体㈱・取締役会長)



に取組んでこられた会員の皆様のご努力に感謝申し上げます。

(2)「環境対応自主取組みの推進」のうちCO₂排出量削減については、会員企業の省エネ設備導入をはじめ数多くの改善策を積み重ねた結果、CO₂排出原単位では基準年度の1990年に比較し38%減少という大きな成果を得ることができました。しかしながら、この間の生産量が約1.7倍にも増加したため、排出総量ではまだ未達となっており、会員企業での更なる削減検討や関連団体含めた全体での対応検討を進めております。その他、塗装工程VOC排出削減、産業廃棄物の削減、商用車架装物リサイクルへの自主取組み、環境負荷物質の使用削減等についても概ね計画どおりに推進させることができました。

今後ますます環境問題が注目される社会情勢になると思いますので、今後とも環境対応を一層充実させて取組みたいと考えております。

(3)「会員への支援サービスの向上」に関しては、昨年度は特に会員への技術的支援の面が充実できたと考えています。具体的には中央技術委員会が主体となり、法規改正時の分かりやすい会員説明、環境対応情報の展開、リコール業務の進め方の判りやすい指導等が充実できました。また会員向けの講演会も定例化でき、初の会員による会員向け技術発表会も盛大に開催することができました。

(4) 当会活動の活性化に関しては

①部会活動充実化、②支部活動充実化、③事務局強化、④広報活動強化、⑤会員カバー率の向上に取組み、いろいろな面で成果が出せたと判断しております。

なお当会は今年、設立60周年となり、人間で言えば還暦という大きな節目を迎えることができました。これもひとえに皆様の長年のご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

現在、これを記念して車体産業技術史や年表の制作を進めておりますが、秋には記念式典も計画しておりますので皆様の参加もお願いいたします。

さて、本年度の商用車市場は、残念ながらまだ低迷が続くと予想されており、鋼材をはじめとした原材料価格の更なる値上げや環境対応でのコストアップ要因も加わり、会員企業の経営の厳しさは当面続く見込みとなっております。

この厳しい状況の中、当会は「環境対応と安全対応」の社会的責任を果たすとともに、「車体工業会の活性化」を重点課題として取組みますが、その活性化に最も重要なことは「会員企業の繁栄」であることを念頭において、皆様に一層役立つ車体工業会を目指して活動を進めてまいります。

会員の皆様方には、一層のご支援、ご協力をお願い申し上げまして挨拶とさせていただきます。

社団法人 日本自動車車体工業会
2008年度(第38回)通常総会

2008年度 通常総会開催



当工業会の2008年度(第38回)通常総会は、5月23日15時30分からホテルパシフィック東京において盛大に開催された。

総会の概要は次のとおりである。

◆出席者数

正会員	69社
“ 委任状による出席	92社
(総数 163社のうち)	計 161社
準会員	33社

◆来賓(敬称略)

○官庁関係
経済産業省製造産業局自動車課 中嶋課長補佐
国土交通省自動車交通局技術安全部審査課 和辻課長

1. 開会

瓜谷事務局次長が開会を宣言し、まず久保地会長が挨拶、続いて定款第24条により久保地会長が議長に選出された。

続いて事務局より出席会員数について、本総会が適法に成立する旨の報告があり、更に総会議事録署名者に北村理事と古庄理事の2名が指名された。

2. 議事

- 第1号議案 2007年度(第38期)事業報告に関する件
- 第2号議案 2007年度(第38期)収支決算承認に関する件
- 第3号議案 2008年度(第39期)事業計画(案)に関する件
- 第4号議案 2008年度(第39期)収支予算(案)に関する件
- 第5号議案 2008年度理事の選任および承認に関する件

以上の議案について議長の指示により各々事務局により説明が行われ、審議の結果すべての議案について全員異議なく承認された。

また、第5号議案の承認後、新任理事4名の紹介があった。

議事終了後、退任役員に対する感謝状の贈呈、工業会功労者、永年在籍会員に対する表彰が行われ、来賓を代表して経済産業省中嶋課長補佐並びに国土交通省和辻課長からそれぞれ祝辞をいただいた。

引き続き懇親会に入り、18時30分過ぎ、盛会のうちに幕を閉じた。

来賓挨拶

経済産業省 製造産業局
自動車課課長補佐

中嶋 誠



社団法人日本自動車車体工業会第 38 回通常総会および永年在籍会員功労者表彰式が無事終了いたしましたことをお喜び申し上げます。

貴工業会および加盟各社の方々には、日頃から経済産業行政にご理解とご協力を頂き、この場をお借りしましてあらためてお礼を申し上げます。

さて、昨年まで息の長い景気回復を続けて来た日本経済ですが、ここきて先行きに不透明感が見られ、景気回復は足踏み状態にあるとされています。また海外でも米国市場の冷え込みや、急激な円高、原材料価格の高騰など懸念される状況が見られています。更に近年では環境問題の取組が重要となっており、貴工業会に対して、社会的要請が寄せられていることと思います。

■懇親会風景



田中副会長による乾杯で懇親会の開催となった

温暖化、排ガス、リサイクルといった環境問題への取組み強化、そしてコンプライアンスの徹底につきまして引き続き貴工業会が積極的に取組まれますことを期待しております。

経済産業省としても皆様との連携のもと、自動車車体工業会の健全な発展を応援していきたいと考えております。

最後になりましたが、貴工業会の更なる発展と本日まで出席の皆様方のご健勝とますますのご活躍を祈念しまして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



懇親会は
会員同士の交流を図る
場となった



最後は比企副会長の一本締めで幕を閉じた

来賓挨拶

国土交通省 自動車交通局
技術安全部審査課長

和 健二



本日は日本自動車車体工業会総会にお招きいただきありがとうございます。貴会におかれましては、本年設立 60 周年を迎えられたとのこと、誠におめでとうございます。また、皆様には日頃より国土交通行政に対しまして、格別のご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

ご案内のとおり、自動車はわが国の経済・社会の発展を図るために極めて大きな役割を果たしておりますが、一方で交通事故の発生や地球温暖化などの課題を抱えています。

平成 19 年中の交通事故死者数は 5744 人で、7 年連続の減少となり、昭和 28 年以来 54 年ぶりに 5 千人台となりました。また、増加傾向が続き、平成 16 年に過去最悪を記録した交通事故発生件数および負傷者数も、3 年連続して減少しました。しかしながら、負傷者数は 9 年連続で 100 万人を超えるなど、依然として厳しい状況にあります。

国土交通省においては、車両安全対策の推進により平成 22 年に交通事故死者数を 2 千人削減（対平成 11 年比）、負傷者数を平成 22 年に 2 万 5 千人削減（対平成 17 年比）、平成 27 年に 5 万人削減（対平成 17 年比）するとしています。

この目標を実現するため、これまでの衝突安全対策に加え、予防安全対策の充実を図ることとしています。

第一に先進安全自動車（A S V）について、大型車の衝突被害軽減ブレーキを補助金を通じて普及促進を図るとともに、I T 新改革戦略に基づき、官民連携のもと、通信技術を活用した安全運転支援システムの実用化に向けた大規模実証実験を行うこととしています。

第二に安全基準の拡充・強化について、大型車の安

全対策を一層進めるとともに、飲酒運転撲滅に向けて本年 3 月にアルコールインターロック装置に関する技術指針案を策定したところです。

第三に自動車アセスメントについて、平成 7 年以来、車種ごとに衝突安全性能等を一般公表することで、ユーザーの安全なま選びのための環境を整え、一方で、自動車メーカーに対してより安全な自動車の開発を促すという重要な役割を担ってきており、今後も「安全なま」の普及のために効果的な公表活動並びに事業の充実に努めてまいります。

このように国土交通省として、安全性の向上についてはさまざまな施策を講じているわけですが、近年の製品安全に対する関心が高まっているところであり、本日の機会をとらえまして、貴会との関係の深い具体的な課題について、いくつか申し上げます。

昨年秋に大型トレーラのディスク・ホイールの破断事故に関し、ディスク・ホイール亀裂の情報収集等について貴会にもご協力いただきました。結果としては 3 月にリコール実施となりましたが、車両開発等の点で個別の会社の案件にとどまらず、貴会の会員各位に対応していただきたい点があり、お願い申し上げたところであります。徹底をお願いします。

また、本年当初に、型式指定自動車の完成検査の一部が長期間に亘り実施されていなかったという事案が発覚しました。貴会の会員各位におかれましては、安全確保と環境保全の要である型式認証制度の確実な実施を是非お願いしたいと思います。

なお、二次架装問題については、平成 20 年 3 月末でトラック関係については約 84 %、バス関係については 100 %が改修済みとなったとご報告いただいております。貴会のご努力に感謝申し上げます。完全改修に向け、なお、一層の取組みをお願いします。

安全の確保は、国民にとってはもちろんのことですが、皆様方にとっても極めて重要な課題であるものと思っております。車両の安全性に対する信頼性が揺らぐようなことがあっては、自動車社会の将来に大きな影を落とすこととなるのは明らかであります。

是非、今後とも、確実な対応をしていただき、皆様の実践的な発展の基盤を維持していただきたいと思います。

最後に日本自動車車体工業会の益々のご発展と、ご列席の皆様のご健勝・ご繁栄を祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

2008 年度 理事・監事・相談役 (自 2008 年 5 月 23 日)
(至 2009 年 5 月 21 日)

(注) ○…2007 年 7 月 12 日付 新任者 □…2007 年 10 月 11 日付 新任者 ☆…2008 年 4 月 10 日付 新任者 ◎…2008 年 5 月 23 日付 新任者

区 分	氏 名	会 社 名	会 社 役 職	工 業 会 役 職
本 部 役 員	久保地理介	トヨタ車体(株)	取締役会長	会 長
	高木 茂	日産車体(株)	取締役社長	副会長
	田中 勝志	極東開発工業(株)	取締役社長	副会長
	比企 能信	日本フルハーフ(株)	取締役社長	副会長
トラック 部会	堀尾 浩二	不二自動車工業(株)	取締役社長	部会長
	落合 轟	司工業(株)	取締役社長	
	山田 和典	山田車体工業(株)	取締役社長	
バス部会	田中 真二	三菱ふそうバス製造(株)	取締役社長	部会長
	黒川 学	西日本車体工業(株)	代表取締役専務	
	○ 吉村 太朗	ジェイ・バス(株)	取締役社長	
特装部会	筆谷 高明	極東開発工業(株)	代表取締役専務	部会長 (四国支部長兼務)
	阿部 文夫	カヤバ工業(株)	理事特装車両事業部長	
	□ 久保 哲也	(株)タダノ	執行役員	
	井上 善量	新明和工業(株)	常務執行役員	
小型部会	安田 善次	関東自動車工業(株)	取締役社長	部会長
	石井 完治	セントラル自動車(株)	取締役社長	
	水嶋 敏夫	トヨタ車体(株)	取締役社長	
特種部会	古庄 忠信	(株)イズミ車体製作所	取締役社長	部会長
	林田 廣一	(株)林田製作所	取締役社長	
	五島 洋	京成自動車工業(株)	取締役社長	
トレーラ 部会	西川柳一郎	日本トレクス(株)	取締役社長	部会長
	高井 雅義	東急車輛製造(株)	専務取締役執行役員	
	沼部 宣司	小平産業(株)	常務取締役	
バン部会	川本 豊	日本フルハーフ(株)	取締役	部会長 (新潟支部長兼務)
	北村 泰作	(株)北村製作所	取締役社長	
	倉持 弘海	(株)パプコ	顧問	
資材部会	◎ 杉本 眞	レシップ(株)	取締役社長	部会長
	福西 紀雄	天龍工業(株)	取締役会長	
支 部	原 忠彦	(株)パプコ北海道	取締役社長	北海道支部長 東北支部長 新潟支部長 関東支部長 中部支部長 近畿支部長 中国支部長 四国支部長 九州支部長
	☆ 磯野 栄治	(株)いそのボデー	取締役社長	
	(北村 泰作	(株)北村製作所	取締役社長	
	荒井 直人	富士重工業(株)	執行役員	
	山崎 茂雄	(株)東海特装車	取締役社長	
	堀口 昇一	須河車体(株)	取締役社長	
	大上 力夫	(株)大上自動車工業	取締役社長	
	□ (久保 哲也	(株)タダノ	執行役員	
	矢野 羊祐	(株)矢野特殊自動車	取締役会長	
事務局	橋本 茂	車体工業会	—	専務理事・事務局長
計 36 名 (定数 40 名以内)				
監 事	犬塚 敏樹	(株)犬塚製作所	取締役社長	
	元谷 忠	—	—	
計 2 名 (定数 3 名以内)				

() は兼任

相 談 役	添田 広政・岩崎 充男・内川 晋・内山 眞成
-------	------------------------

会社名及び役職は 2008 年 5 月 23 日現在による。

退任理事・監事感謝状および車体工業会功労者表彰

◎退任理事感謝状 (4 名)

滝 沢 聰	ジェイ・バス(株)	取締役社長
北 野 尚 夫	(株)タダノ	執行役員
鈴 木 勇	仙台鈴木自動車工業(株)	取締役社長
泉 龍 彦	クラリオン(株)	取締役社長

◎車体工業会功労者表彰

●支部関係 (3 名)

堀 田 彰	北海道支部	札幌ボデー工業(株)	代表取締役
坂 本 稔	中部支部	トヨタ車体(株)	取締役副社長
大 橋 啓 史	近畿支部	(株)オートワークス京都	取締役

●部会関係 (11 名)

瀬 戸 幸 雄	ト ラ ッ ク	新明工業(株)	車両特装事業部事業管理部主査
米 山 宣 夫	〃	司工業(株)	取締役副社長
水 江 泰 三	バ ス	ジェイ・バス(株)	品質管理部長
渡 辺 敏 典	〃	三菱ふそうバス製造(株)	生産管理部資材計画 G マネージャー
笠 原 哲 男	特 装	カヤバ工業(株)	特装车両事業部専任課長
高 島 義 典	〃	極東開発工業(株)	執行役員管理本部副本部長
長 尾 嘉 宏	〃	新明和工業(株)	広島工場設計部主任技師
長 田 善 彦	〃	〃	佐野工場設計部主任技師
斉 藤 豊	〃	富士重工業(株)	エコテクノロジーカンパニー営業部
伊 藤 公 一	特 種	名自車体(株)	取締役事業部長
久 恒 敏 彦	バ ン	東急車輛製造(株)	特装自動車事業部営業部特販 2 課課長

◎ 2008 年工業会永年在籍会員表彰

●正会員

60 年	22 社	碓谷自動車工業(株) (株)北村製作所 小平産業(株) 札幌ボデー工業(株) トヨタ車体(株) 日産車体(株) 不二自動車工業(株) 三菱ふそうバス製造(株)	(株)犬塚製作所 岐阜車体工業(株) 小林車体工業(株) 司工業(株) (株)トランテックス 日通商事(株) 富士重工業(株)	尾張車体工業(株) (株)京成自動車工業(株) 埼玉自動車工業(株) 東急車輛製造(株) (株)中北車体工作所 (株)パプコ 美川ボデー(株)
50 年	2 社	園井ボデー工業(株)	細谷車体工業(株)	
40 年	4 社	第一ボデー(株) 豊和工業(株)	東京特殊車体(株)	トヨタテクノクラフト(株)
30 年	2 社	富士車体工業(株)	(株)茂木鉄工所	
20 年	2 社	(株)寺尾自動車工業	飛島車体工業(株)	

●準会員

40 年	1 社	トーシンテック(株)
30 年	1 社	関西ペイント(株)

新任理事



吉村 太郎氏
(ジェイ・バス㈱)



久保 哲也氏
(㈱タダノ)



磯野 栄治氏
(㈱いそのボデー)



杉本 眞氏
(レシップ㈱)

退任理事



滝沢 聰氏
(ジェイ・バス㈱)



北野 尚夫氏
(㈱タダノ)



鈴木 勇氏
(仙台鈴木自動車工業㈱)
2008年2月5日逝去



泉 龍彦氏
(クラリオン㈱)

車体工業会功労者表彰

●支部功労者表彰



堀田 彰氏
(札幌ボデー工業㈱)



大橋 啓史氏
(㈱オートワークス京都)



坂本 稔氏
(トヨタ車体㈱)
(当日欠席)

●部会功労者表彰の皆様



永年在籍会員表彰

●在籍 60 年表彰



●在籍 50 年表彰



●在籍 40 年表彰



●在籍 30・20 年表彰の皆様



※写真掲載は総会に出席された皆様 (一部代表者のみ)

2008 年度 事業計画

本 部 計 画

1. 現状認識

(1) 商用車市場動向

日本経済は米国サブプライムローン問題や原油高騰等の影響を受け、先行き不安定な状態が続いている。また 2007 年度に大きく落ち込んだ商用車国内需要は、2008 年もまだ低迷が続く見通しとなっている。

年度↓	車種→	普通貨物	(4〜5トン型)	小型貨物	大型バス	小型バス
2006 年度実績 (千台)		202	106	341	5.6	11.5
2007 年度実績 (千台)		166	86	283	5.2	10.2
(対前年度比 %)		(82.2)	(81.3)	(83.1)	(93.5)	(88.8)
2008 年度見通し (千台)		163	83	271	5.1	10.0
(対前年度比 %)		(98.2)	(96.5)	(95.8)	(98.1)	(98.0)

しかしながら貨物車平均使用年数は 11.92 年 (前年比 + 0.45 年の伸び) となっており、そろそろ限界を迎えているという見方が多く、中期的には景気回復に伴う需要回復が見込まれている。

燃料費高騰の影響や改正省エネ法の目標達成のため車両大型化、集中配送や積載率向上によるグリーン物流化、更には船舶輸送、鉄道輸送へのモダルシフト化が徐々に進みつつある。具体的には車両大型化 (9 トン積み以上車の割合増) と営業車登録比率の増加 (2006 年 18.9% → 2007 年 21.5%) がでており、実車率や積載率アップに向けて特定目的積載車から大型の汎用輸送車への流れがみられる。

また、グローバル市場をみれば、成長を続ける B R I C s や資源国をはじめとして、特装車、架装車関係の需要は今後さらに拡大傾向が続く見込みである。

(2) 車体業界の動向と当会対応

車体架装業界は需要が落ち込む中、架装メーカーの系列化、シャシメーカーでのインライン架装の増加、大手企業での寡占化、架装メーカーの得意分野への投資集中化が進みつつある。それに伴い、架装メーカー間の相互 O E M 供給やキット販売が増加し、バンや平ボデーでは比較的安価な標準仕様車の割合が増加している。

このように変化の激しい車体業界であるが、当会で対応すべき項目として下記の内容がある。

①原材料値上げに伴う利益率低下

台数が落ち込む中、3 年前の鋼材値上がり以降、油脂類、アルミ材、ステンレス鋼板、銅板等の原材料の

値上がりが続く、更に環境対応での材料費アップも重なり架装メーカーの経営実態は大変厳しくなっている。特に当会会員の 73% は中小企業であり、影響の大きい中小企業主体に経営支援策の検討が必要である。

②環境対応の重要性アップ

環境対応の必要性が一般にも浸透し、当会で従来から進めている環境への自主取り組みもますます重要性は高まってきている。具体的には CO₂ や V O C の削減、また循環型社会に向けた架装物リサイクルへの取り組みや環境負荷物質の削減、産業廃棄物削減等を計画通りに達成させるとともに、自主取り組み参画会員数の増加等のスパイラルアップを進めていく。

③技術革新の進展

燃費向上や積載量確保のための軽量化設計、環境対応のための材料や構造の見直し、積載効率アップや荷役容易性アップ、長寿命化という基本性能のアップ、また法規対応もあり、車体架装業界の技術は大きく進歩しており、技術開発が生き残り戦略ともいえる。商品力向上への積極的な開発競争は会員毎に必要なだが、商品力に影響の少ない環境対応部品の共同開発や要素部品の共通化は当会全体で進め、会員企業の原価低減に結び付けたい。

また技術開発に多くの資源投入の出来ない中小企業会員に対し、法規対応の円滑化や技術力向上のための各種支援を充実させていく。

④不正な二次架装の根絶

2005 年に発覚した「過去の不正な二次架装」を契機に、その後 2 年間、根絶活動を重点活動として取り組んできた。その結果、本年 1 月に実施した当会の調査においては、従来あった販売店営業マンからの要請も皆無となり不正な二次架装は根絶できていると判断する。しかしながらお客様からの要請は依然として残っており、更に非会員を含めた根絶の定着のために関係団体、関係官庁と連携し、継続した活動を続けていく必要がある。

また会員については、活動範囲を幅広い C S R への対応に広げ、会員企業のコンプライアンス再徹底も図っていく。

⑤グローバル化の進展

全体台数の落ち込む中、輸出台数は拡大し、特装車
においての輸出比率は 17.7%（前年：11.9%）と急増
している。また自動車部品全体の輸入量は増大を続け、
2006 年度は前年比 25%増にもなっており、グローバ
ル化は着実に進行している。当会会員の海外工場進出
計画は少ないが、輸出については今後とも増加が予想
される。特装車の輸出地域は資源国、新興国主体であ
り、市場情報も十分とはいえないため関連情報の収集、
展開を進めていく。

（3）2007 年度活動実績からの課題

活動指針を 20 年ぶりに変更、新たに行動指針も設
定し、また活動推進母体として各種委員会組織を見直
し当会活性化をスタートさせて2年経過、いろいろと
成果がでてきた年といえる。

各委員会の積極的な活動により

- 1）事業計画進捗フォローの PDCA サイクル化定着
 - 2）不正な二次架装の根絶を確認
 - 3）環境対応自主計画の目標がほぼ達成
 - 4）会員への技術的支援の充実
 - 5）広報活動の大幅充実化
 - 6）事務局強化策の進展（規程類改訂、仕組み作
り等）
 - 7）定例継続業務の充実化（講演会、情報提供等）
- 等に多くの成果が得られた。

反面、部会活動の充実化、支部活動の活性化、規制
緩和要請活動、会員カバー率向上活動、標準化/基準
化の推進等うまく進まなかった項目もあり、方策を見
直し再度推進していく必要がある。

当会は本年、設立 60 周年、還暦という記念すべき
節目を迎えた。環境変化の激しい中、新たな車体業界
の発展のためには、当会の長い歴史や車体技術史をま
とめるとともに、将来に向けた姿を構築していくこと
が重要である。特に当会活動としては社会に必要不可
欠な「働くクルマ」を発展させるための活動、例えば
安全で使いやすい仕様や環境にやさしい車体構造につ
いての規格作成や標準化等の充実が必要である。

2. 2008 年度主要活動項目

（1）環境対応自主取組みの推進

- ①架装物リサイクルに関する自主取組み
 - ・リサイクル設計の推進
 - ・環境負荷物質の使用削減
 - ・協力事業者制度の拡充
 - ・環境基準適合ラベル普及

②地球温暖化ガス（CO₂）削減活動

③VOC 削減活動

④産業廃棄物の減量化

⑤環境対応技術支援の充実（推奨仕様、推奨構造、 推奨素材等まとめ）

⑥環境保護への啓発活動の充実（講演会、研修会、 広報活動等）

（2）安全対応活動の推進

- ①非会員架装メーカーを含む不正改造の根絶活動
の推進
 - ・販売店と連携した業界全体の根絶活動継続
 - ・国土交通省と連携した活動推進（特に 110 番制
度の活用徹底や根本解決策の提言）
 - ・非会員架装メーカー含めた根絶 P R 活動
（新聞 / 雑誌広告、6 月の強化月間参画、パンフ
レット作成等）
 - ・会員会社での倫理徹底の仕組み導入支援
- ②架装車に最適な車両法規改正提案と決定事項の
円滑な対応
- ③車体 / 部品の規格作成、部品 / 仕様の標準化推進
- ④会員企業の技術レベルアップへの支援充実

（3）会員への支援サービスの充実

- ①会員会社に対しての各種有用な施策の調査、情報
提供
 - ・車両法規関係、検査登録関係の技術支援情報
 - ・中小企業支援策、人事労務情報、税制等の経営
支援情報
 - ・グローバル化（輸出）関係情報
 - ・有用な会員向け講演会の定例化、充実化
- ②関係諸団体と連携した関係官公庁への法制、税制
改革や規制緩和要請
- ③各種サービスの拡大と会員満足度向上

（4）活性化活動の継続推進

- ①部会活動充実
 - ・部会での調査研究業務の確実な推進
 - ・車体 / 部品に関する規格作成と部品標準化推進
 - ・部会カバー率向上活動
- ②支部活動の充実
 - ・支部～本部の棲み分け明確化と連携強化
 - ・地域毎の会員カバー率把握と非会員の入会促進
 - ・地域会員の正会員化推進
- ③広報活動の充実化
 - ・機関誌、ホームページでの情報発信の充実化
 - ・マスコミと連携した当会活動の社会への発信充
実化
 - ・物流展等のイベントを通した当会活動の P R

④事務局強化

- ・業務の仕組み見直し（規程／基準／マニュアル
類の整備）
- ・組織、分担の見直し

（5）設立 60 周年記念事業

- ① 60 年の歩み（年表）の作成
- ②部会別車体産業技術史の作成

③記念イベントの開催（秋季会員大会と兼ねる）

（6）定例活動業務の円滑な実施

- ①各種届出業務自主管理作業
- ②各種会員向けイベント盛況化（総会、講演会、
賀詞交換会等）

部 会 事 業 計 画

トラック部会

1. 活動方針

厳しい経営環境を乗り切るため、架装材料、部品コ
ストに関する調査と対応検討を実施。
また、製品の安全性、品質向上の検討および関係法
令の対応を推進する。

2. 部会活動計画

1) 部 会

- （1）関係法令の改正等に伴う適切な対応および適
用緩和要望の支援
- （2）委員会活動の支援
- （3）車体産業技術史（60 周年記念事業）のとり
まとめ支援
- （4）需要動向についての情報収集及び講演会の実
施
- （5）部会会員相互の情報交換

2) 業務委員会

- （1）需要動向の情報収集および展開
- （2）会員カバー率の向上活動：加入活動の推進
- （3）平ボデー原価の調査：平ボデー原価仕様書の
作成

3) 技術委員会

- （1）調査研究および試験業務の充実：突入防止装
置、スパーサー等の強度計算書作成
- （2）環境対応材料、部品等の調査：金具類、ヒンジ、
ロック等の環境負荷物質含有量の把握、環境
適合ラベル貼付率拡大
- （3）規格、基準類の作成：実施項目等の検討およ
び推進

- （4）部品の共用化、標準化の推進：丁番、ロッ
ク装置、床材の使用実態アンケート

4) 車輛運搬車分科会

車輛運搬車の構造基準の改正に伴う、自主基準の見
直し、検討

5) P R 委員会

トラック製品の有用性を P R：車体工業会ホームページの活用

バス部会

1. 活動方針

国内向けバスの大幅な市場拡大が見込めない中、さ
まざまな行政施策に整合したバス車体をより効率的に
設計・製造する必要がある。

そのため、会員各社に加え、（社）日本自動車工業会、
（社）日本バス協会等の関連団体とも連携を図りなが
ら、バス車体に関する各種規格の作成や法規対応検討、
部品の共用化・共同購入を積極的に推進する。

2. 部会活動計画

1) 部 会

- （1）車体産業技術史の検討
- （2）各委員会／分科会への支援
- （3）部会運営全般に関する諸課題の検討
- （4）バス車体産業労働組合連絡会とバス部会経
営者層との懇談会の実施

2) 業務委員会

- （1）規制緩和要望項目の洗い出し
- （2）法令遵守状況の会員間相互チェック
- （3）日本バス協会との連携を強化し、使用者・
製造者のそれぞれの課題を整理・共有

3) 技術委員会

- (1) 新法規への対応：新ワンマンバス構造要件対応検討（自動車工業会合同検討）等
- (2) 部品標準化の推進：バス車体規格集の改訂、ワンマン機器の J A B I A 規格化の推進
- (3) 部品共用化の検討：対象は新ワンマンバス構造要件に対応で新設となる部品等
- (4) 環境対応課題への取組み：軽量化技術の調査
- (5) 車両法規関係の規制緩和要望検討

4) 資材委員会

- (1) バス車体部品のコスト低減と円滑な調達を図るため、共同購入部品について検討
- (2) 海外調達先を視野に入れたコスト低減検討：海外部品メーカーの視察

特 装 部 会

1. 活動方針

特装部会は、当会が定める活動方針にしたがい、環境対応自主取組の推進、安全対応活動の推進を図る。また、特装車の適正使用の P R 活動、会員カバー率向上の課題に取り組む。

2. 部会活動計画

1) 部 会

- (1) 関係法令の改正等に伴う適切な対応および適用緩和要望の支援
- (2) 会員事業の活性化を促進するための支援活動（輸出拡大への支援含む）
- (3) 車体産業技術史（60 周年記念事業）のとりまとめ支援
- (4) 部会会員相互の情報交換

2) 業務委員会

- (1) 特装車に関するユーザーニーズの情報収集および展開
- (2) 会員カバー率の向上活動：2007 年度 5 社に入会案内、さらに推進予定
- (3) 不正改造排除運動への参画：ダンプ車用手動式可動バンパーの普及促進

3) 技術委員会

- (1) 調査研究および試験業務の充実：安全装置／ランプガード等の試作品開発
- (2) 特装車の環境対応材料、部品等の調査：ポンプ、バルブ、継ぎ手、スイッチ類の環境負荷物質（鉛、水銀、

- 六価クロム、カドミウム）の含有量の把握等
- (3) 規格、基準類の作成：J A B I A 規格の新設（脱着キャリア・コンテナの審査基準）
- (4) 部品の共用化、標準化の推進：じん芥車等のランプガードを試作し照度試験実施
- (5) 特装車の海外使用実態調査：海外諸国の使用車種およびスペック等の実態調査

4) サービス委員会

- (1) 特装車の適正使用推進活動：作動油の適切な交換時期等に関するサービスマニュアルを作成し P R 活動を展開
- (2) 車両関係法規改正に伴う「Q & A 集」の作成：規定化および改正される法規を対象
- (3) 会員相互研鑽、知見を高めるための異業種等工場見学会の実施
- (4) 架装物の点検、整備項目および時期の検討

小 型 部 会

1. 活動方針

小型部会は部会員の連携を密にするとともに、当会全体運営に積極的に協力し車体業界の発展に寄与していく。

- (1) 今年度は特に会員拡大を図るとともに、会員相互の情報交換の場を拡大する。
- (2) 充実した工場見学会、海外視察等を計画し、参加者増を図る。

2. 部会活動計画

1) 部 会

- (1) 経営者懇談会
国の自動車産業に対する施策および業界を取り巻く諸情勢を把握するため、主管官庁との懇談会を開催
- (2) 工場見学会、海外視察の実施
会員企業の工場見学、異業種見学、海外視察等を行い、会員相互の理解、技術交流を図る。
- (3) その他
 - ・秘書室連絡会の定例化…当会全体行事日程の検討等
 - ・環境委員会 W G 活動への参画し活動推進、広報委員会等への参画、協力
 - ・官公庁や他団体の講演会、展示会等の部会員への積極的案内

- ・広報担当者や教育担当者等の各社間連携を検討

2) 技術委員会

- (1) 充実した小型車車体産業史の制作、発行
- (2) 見学会等部会イベントの計画立案
- (3) 技術委員相互の交流

3) 経営企画部門委員会

- (1) 経営に関わる動向の調査と研究
 - ①経営動向を把握するため講演会等への参加
 - ②関係官庁との情報交換の実施と対応
- (2) 委員会各社との情報交換の実施

特 種 部 会

1. 活動方針

2008 年度における特種部会は、引き続き厳しい経済環境の中、以下項目を主体に取り組む。

- 1) 安全・環境・コンプライアンスへの課題に取り組む、業界全体の健全な発展を目指す。
- 2) 会員カバー率の向上活動
業界活動の円滑な実施のため、また業界全体や官公庁への影響力を強めるため会員数を増加させる。
- 3) 昨年度活動の継続として以下を推進
 - ・特種部会車体産業技術史の作成
 - ・特種部会内サービス体制の進捗
 - ・部品共用化／共同購入の進捗
- 4) 構造要件見直し／関連法規改正等の対応／自動車検査法人情報交換に対応

2. 部会活動計画

1) 部 会

- (1) 関連法令改正等に伴う適切な対応への支援／検査関係部署との情報交換
- (2) 特種部会車体産業技術史の作成
- (3) 部会会員相互の情報交換
- (4) 異業種を含めた研修会／工場見学会

2) 業務委員会

- (1) 会員カバー率の向上：新規部会員勧誘の進捗
- (2) 部会内サービス体制設立の進捗：会員間でのサービス用スペース／修理時の器材等の提供に関する検討
- (3) 部品の共用化検討の進捗：発動発電機

3) 技術委員会

- (1) 「特種用途自動車の構造要件」の国土交通省

- への各種要望／提案出し

- (2) 関係法令改正等への対応、意見照会、要望出し
- (3) 環境対応材料、部品等の調査：環境負荷物質の含有量の把握、等

- (4) JABIA 規格の見直し／新規規格の検討
活魚運搬車自主安全等構造規準見直し
各種推奨仕様の新規格の設定

ト レ ー ラ 部 会

1. 活動方針

トレーラ部会は、安全・品質・技術向上を部会、各委員会の連携を図り推進するとともに、官公庁や関係団体とも連携を図り課題の解決に努める。また、活動内容については、会員各社の業務の合理化、適正化につながるものとする。

2. 部会活動計画

1) 部 会

- (1) 関係法令の改正等に伴う適切な対応および適用緩和要望の支援
- (2) 会員事業の活性化を促進するための支援活動
- (3) 車体産業技術史（60 周年記念事業）のとりまとめ支援
- (4) 部会会員相互の情報交換

2) 業務委員会

- (1) トレーラに関するユーザーニーズの情報収集および展開
- (2) トレーラ輸送の有効性の P R 活動：環境負荷低減、輸送の効率化等
- (3) ハブオドメータの標準設定に関する検討・調整
- (4) 会員カバー率の向上活動

3) 技術委員会

- (1) 調査研究および試験業務の充実
 - ・ポールトレーラの中期ブレーキ対応試験
 - ・アルミホイールの弛み確認試験
- (2) トレーラの環境対応材料、部品等の調査：バルブ、継ぎ手類の環境負荷物質含有量の把握等
- (3) 基準類の作成：ホイールボルトの I S O 規格採用
(ホイールナット締付トルク、ドライ・ウェット)の統一化の検討)

4) サービス委員会

- (1) トレーラの適正使用推進活動：サービスマニュアル改訂、サービスニュース作成、取扱い説明書へ記載する内容について基準化
- (2) 会員相互研鑽のため工場見学会の実施

5) 車輛運搬用トラクター委員会

- (1) 車輛運搬トラクター型式届出書の自主審査

バン 部 会

1. 活動方針

厳しい情勢の変化を注視し、部会員間の協力により難局を乗り切ることとしたい。

流通面の調査、検討、品質、安全、技術向上、関係法令対応のための活動は各委員会を中心に推進して行くこととする。

2. 部会活動計画

1) 部 会

- (1) 関係法令の改正等に伴う適切な対応および適用緩和要望の支援
- (2) 委員会活動の支援
- (3) 車体産業技術史（60周年記念事業）のとりまとめ支援
- (4) 部会会員相互の情報交換

2) 業務委員会

- (1) 需要動向の情報収集および展開
- (2) 会員カバー率の向上活動：加入活動の推進
- (3) 車両保証の情報交換：保証期間、保証内容の確認

3) 技術委員会

- (1) 調査研究および試験業務の充実：突入防止装置、スペーサー等の強度計算書の作成
- (2) 環境対応材料、部品等の調査：金具類、ヒンジ、ドアハンドル、ロックの環境負荷物質含有量の把握、環境適合ラベル貼付率の拡大
- (3) 「冷蔵・冷凍自動車取扱いの手引き」の作成

資 材 部 会

1. 活動方針

「ビジネスネットワーク」活動(分科会・グループ活動)を基本に、会員間の意志の疎通を図るとともに、他部会とも積極的に交流していく。

部会員の積極的な参加で分科会・グループ活動を活性化させ、各種共通課題への対応を図り、会員にメリットの大きい、魅力ある活動を推進していく。

2. 部会活動計画

1) 部 会

- (1) 役員・幹事会の開催
年度総括会議において、年度計画・予算を決定していくが、役員会・幹事会を随意開催し、その方向付け、諮問を実施していく。また、役員・幹事会で見学会を上期、下期開催予定
- (2) 他部会との交流・活動の推進（本部活動や他部会活動に積極的に参画）
- (3) 部会員相互の交流と研修のため、部会見学会を開催（11月開催予定）
- (4) 環境・安全問題に係わる情報、関連規格情報の提供や講演会の実施
- (5) 機関誌やホームページを利用したの部会活動並びに会員会社のPR活動を推進
- (6) グローバル化を推進すべく、躍進している海外自動車産業の視察の実施
- (7) 「60周年車体産業史」の資材部会分の修正確認、編集

2) 分科会・グループ（2分科会・12グループ）

- (1) 「60周年車体産業史」の資材部会分修正、部会提案
9月印刷、10月の配布に向け、最大の課題で工数のかかる作業であり、当面はこれを最優先していく。
- (2) 同業種間の各種情報交換、共有化及び課題への対応
- (3) 専門家としての他部会要請への対応と他部会への積極的な働きかけ実施
- (4) 相互研鑽のため会社相互訪問あるいは異業種訪問等の実施（分科会ごとに実施）

欧州における 建機運搬用トレーラ・特装車の後面灯火器の 取付実態を調査

中央技術委員会（委員長・田中勝志・極東開発工業㈱取締役社長）では、3月3日～5日の3日間、イギリスおよびフランスにおける建機運搬用トレーラ・特装車の後面灯火器の取付け実態調査を行った。

■参加者

高島義典(極東開発工業㈱) 芳崎春樹(東急車輛製造㈱)

1. 背景および調査目的

現在、日本ではECE R48（灯火器の取付け規則）のカテゴリーM1（乗車定員9人以下の乗用車）およびN1（車両総重量3.5トン以下の貨物車）のみを採択しているが、将来的にはカテゴリーの枠を広げて採択する必要があると考えられる。

日本の保安基準では、ECE規則のようなカテゴリー分けをしておらず、トレーラや特装車を含め同一の技術基準が適用されている。このため、現状の車両の使用条件等を考慮し必要に応じ基準適用の緩和がされている。例えば建機運搬トレーラの後面灯火器（尾灯、後面方向指示器、制動灯）の取付け高さが緩和されている。

昨年の第57回GRE会議（WP29 灯火器専門分科会）において、今後、日本としてECE R48のカテゴリーM1およびN1以外への採択に備え、R48と日本の保安基準との整合性を高めるべく、セミトレーラの後面灯火器の取付け高さの緩和をWP29へ提案した。しかし、欧州各国ではこれらの車両への灯火器の後面取付け高さについては問題となっていないとの情報を得たため、日本として提案は一時取り下げた経緯がある。

欧州のセミトレーラの写真を入手したところ、これらを見るとECE R48に適合しているかなどのいくつかの疑問点もあり、欧州各国でのこれらの車両の後面灯火器の取付け高さの実態・検査内容・適用法規等の調査が必要と判断し、欧州での取付け実態調査を実施した。



■訪問日程および訪問先

3月3日：イギリス自動車製造販売業者協会（SMMT）
3月4日：イギリス交通省（DfT）
3月5日：フランスの自動車および自動車部品の公的試験機関（UTAC）

2. 調査結果

(1) イギリス

- ・現在は、イギリスの基準 Road Vehicle Lighting Regulation (RVLR) に合致していれば問題なく、ECE R48 を必ずしも満足していないことが判った。ただし、承認している規則は、ECE R48、EEC 指令 76/756/EEC、1989 (RVLR) の3種類あり、この中のどれかを遵守すればよいとしている。
- ・今後は、段階的に ECE R48 を遵守させていく計画があることが判った。
R48 への適用日程は、次のとおり。
2009年4月29日～2010年10月28日
ボランティア期間
2012年10月28日～
1社で製造される大型トレーラに適用
2013年10月29日～
2社以上で別々に作られる大型トレーラに適用
2014年10月29日～
特殊目的トレーラに適用

(2) フランス

- ・フランスには自動車や自動車部品の事務的な手続きをする機関 CNRV (National Type Approval Department) と、技術的内容を証明する機関 UTAC がある。
- ・後面灯火器の適用規則は、フランスの国内法またはECE R48 であり、必ずしも R48 を適用しなければならないということではない。また、欧州各国共、自国の法規とECEの法規とどちらかを選ぶ二本立てでやってるという回答を得た。
- ・フランスもイギリスでの情報の通り、今後(4年後)は、ECE R48 を適用していくとの考えが示された。

3. 今後の対応

今回の調査結果を踏まえ、段階的ではあるが4年後には欧州各国がECE48を適用するとのことであるので、その対応方策について欧州のトレーラメーカー等と情報交換をしていく予定である。

本部だより

■中央技術委員会を開催

中央技術委員会（委員長・田中勝志・極東開発工業㈱取締役社長）では、3月11日、当会会議室において12名の委員が出席し、第4回委員会を開催した。主な議題は次のとおり。

1. 2007年度中央技術委員会の事業計画進捗状況について
 - (1) 法規関係の対応
 - ・再帰反射材の取付方法、取付位置等に関するQ & A をとりまとめて年度内に、関係部署に意見照会することとした。
 - ・「大型車後部ナンバープレートの取付位置の基準検討会」に参画している委員から、ナンバープレートの取付角度、車両後端からの奥行寸法等について意見交換している旨の経過説明があった。
 - (2) 会員会社技術の水平展開、相互研鑽活動
 - ・2006年、2007年の当会関係者のリコール届出内容から、不具合発生原因を調査し再発防止対策について検討した調査を説明した。
 - (3) 基準化/標準化推進
 - ・装置、部品等の共同開発、共同購入の進捗状況を確認したところ8件は完了、7件は2008年度に継続検討、1件は中止とした。
 - (4) 車体技術史（車工会60周年記念事業）のとりまとめ状況を確認したところ、8部会合計で57社826車種となった。
2. 2008年度中央技術委員会事業計画（案）の策定について
 - ・法規関係の対応、基準化、標準化の推進、会員の技術レベルアップ支援を主要3項目とする。
 - ・各部会の調査研究に対して当委員会が横断的に推進していくことを追加項目とした。

■中央業務委員会を開催

中央業務委員会（委員長・比企能信・日本フルハーフ㈱取締役社長）では、3月4日、当会会議室において15名の委員が出席し、第4回委員会を開催した。不正改造根絶分科会、規制緩和対応分科会、会員拡大分科会から2007年度事業計画に沿って年度のまとめを委員長へ報告、次年度の課題、計画等を論議した。

主な項目

1. 2007年度事業計画まとめ
 - (1) 不正改造根絶分科会
 - ・1月末の不正改造要望有無の調査結果、販売店の営業マンからの要望は上期調査の5件から0件になったが、ユーザーからの要望は33件から5件となった。この結果、車体工業会、

販売会社から不正改造は根絶できたと判断した。しかしながら、今後もユーザーおよび業界からの根絶のために、継続した「不正改造根絶」広報活動を実施する。

(2) 規制緩和対応分科会

- ・規制改革、緩和要望項目の提出依頼を11月に展開したが、2007年度は要望がなかった。

(3) 会員拡大分科会

- ・売上高でのカバー率を算出した結果、正会員（小型以外）で94.3%と車体業界のほとんどをカバー出来ていることが確認できた。
- ・部会活動の魅力分析、未加入会社の勧誘は各部会とも進捗が遅れており、次年度の課題として位置付け、確実にフォローしていく。

2. 2008年度事業計画（案）論議

- ・不正改造根絶活動は、車体工業会/販売会社からの根絶が確認できたため中央業務委員会のNo.2項目とした。
- ・厳しい経営環境が続いている中、中小企業経営に関する支援策等の検討と支援情報の展開の充実を第一優先で行うこととした。

■第195回・196回理事会を開催

第195回理事会を3月3日、第196回理事会を4月10日、当会会議室で開催した。

第195回理事会では、評議員の変更、2008年度事業計画（案）、2007年度決算見込み、2008年度収支予算（案）について審議し、承認された。

第196回理事会では、新入会員、理事補充選任に関する議案の他、2008年度通常総会提出議案、2008年度車体工業会功労者表彰に関する件を審議し、承認された。（詳細議題については23頁の車体工業会活動報告参照）

■評議員会および相談役会を開催

5月8日、当会会議室で2008年度評議員会を開催した。評議員会では、矢島廣一氏（埼玉自動車工業㈱・取締役社長）が議長に選任され、諮問された「2008年度の車体工業会運営方針は適切である」との答申を久保地会長に提出し、閉会した。

なお、同日評議員会に先立ち、相談役会を開催し、添田、岩崎、内山各相談役から「2008年度の運営方針」についてご意見をいただいた。



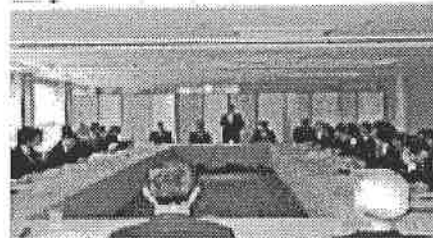
答申を久保地会長に手渡す矢島議長（左）

部会だより

■2008年度部会総会を各地で開催

2008年度の部会総括会議（部会総会）が全て終了し、2007年度活動実績報告および決算報告、2008年度活動計画／予算案の承認を得ると共に部会長をはじめ、新年度の役員が選任された。

部会	開催日／場所
トラック部会	4月17日（木）広島
バス部会	4月15日（火）京都
特装部会	4月14日（月）東京
小型部会	4月10日（木）東京
特種部会	4月17日（木）熊本
トレーラ部会	5月8日（木）東京
パン部会	4月24日（木）岐阜
資材部会	5月9日（金）東京



特装部会



特種部会

バス部会

■(株)オートワークス京都工場見学会を実施

バス部会（部会長・田中真二・三菱ふそうバス製造(株)取締役社長）では、4月15日に開催した2008年度部会総会に併せ、(株)オートワークス京都を訪問し、日産シビリアンの生産ラインと特種車の架装工場の見学を行った。

非常に整理・整頓が行き届いた工場で、組立工程の部品供給にも工夫を凝らし、スッキリとした工程と省人化が実現されていることが印象的であった。

参加メンバーからの部品物流や工程内配員等の質疑にも細かくご説明いただき、大変有意義な見学会となった。



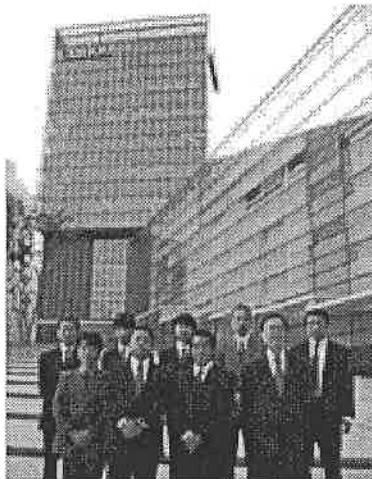
■バス部会資材委員会がクラリオン(株)を訪問

バス部会資材委員会（委員長・青柳 浩太郎・西日本車体工業(株)）では、5月15日に開催した資材委員会で技術委員会も参加して、クラリオン(株)を訪問した。

当日はセールス & マーケティング本部松岡本部長、技術開発本部須貝本部長をはじめ関係の皆様にご対

応いただき、車外カメラによる車両周辺監視技術やドライブレコーダ等の最新のバス関連新技術や新製品の紹介をしていただいた。

説明内容は今後のバスの利便性や安全性向上につながるものが多く、参加者にとって、大変有意義なものであった。



特装部会

■技術委員会を開催

特装部会（部会長・笹谷高明・極東開発工業(株)代表取締役専務）では、4月14日に技術委員会を開催した。主な議題は次のとおり。

1. 委員会の役員変更
 - ・委員長の交代および副委員長の選出
 2. 2008年度特装部会事業計画の確実な実施
 - ・調査研究および試験業務の充実
 - ・規格、基準類の作成
 - ・部品等の共用化、標準化の推進
 3. 環境負荷物質の調査
 - ・スケジュールの指示、確認
 - ・調査票を作成し、使用部位部品名等をリストアップ
 - ・環境負荷物質の調査ワーキング委員の選出
- 各分科会技術主査（7名）および清掃車小委員会座長1名を登録

4. 車工会60周年車体技術史の作成

- ・タイムスケジュールの指示、確認
- ・部会編集責任者（1名）および編集委員（3名）を選出

特種部会

■自動車検査法人本部との技術検討会を開催

特種部会（部会長・古庄忠信・(株)イズミ車体製作所・代表取締役社長）では、3月18日に検査法人本部との第3回技術検討会を実施した。

以下の3項目と当日の質問項目について論議し、検討会結果としてまとめ、部会員に発行した。今年で3年目となり、徐々に項目数もまとまってきたが、密着業務がスムーズに流れるようにすることは、非常に大切なことであるため、今後ともこの技術検討会を継続していくことを確認した。

項目

- ①外装の技術基準について
- ②改造自動車等の申請について
- ③発動発電機のマフラー排気管について
- ④前向き折りたたみ座席のシートベルトの適用除外について

■(株)イズミ車体製作所工場見学会を実施

特種部会では、4月18日に古庄忠信特種部会部会長が代表取締役社長である(株)イズミ車体製作所の新工場（熊本市菊池郡大津町：熊本空港から車で約5分）の見学会を実施した。



新工場建設に当たっての社長の思い、会社案内VTR等での説明の後、工場見学を行った。

広いスペースで且つ整理整頓された工場内では若い従業員がキビキビと働いており、また完璧な外観塗装品質を誇る新塗装設備、水漏れ確認用の噴霧試験設備等、非常に参考になる見学会であった。

また、工場の敷地面積の約4分の1には走行試験用のテストコースも備わっており、毎年行う福祉関係の施設を招いての運動会にも利用していく、とのことであった。

確かな技術と近隣の方々、お客様と友好な関係を築きながらしっかりと成長している会社と改めて感じた。

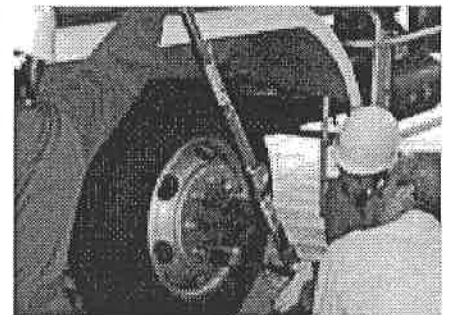
トレーラ部会

■大型トレーラのホール・ナットの弛み試験を実施

トレーラ部会技術委員会（委員長・芳崎春樹・東急車輛製造(株)・設計部設計課主査）では、5月10日～11日にかけて(株)日本自動車研究所城西テストセンターにて大型トレーラ（総重量28トン・積載量22トン）のホイール・ナットの弛み試験を実施した。

走行800で200毎空車と積車のインナーナット・アウターナットの締め付けと弛みトルクの差と状態を確認した。

その結果、ホイールが適正な締め付けトルク値で締め付けられれば弛まないことが出来たが、今後詳細データを分析し、一層の安全性向上に活用していく。



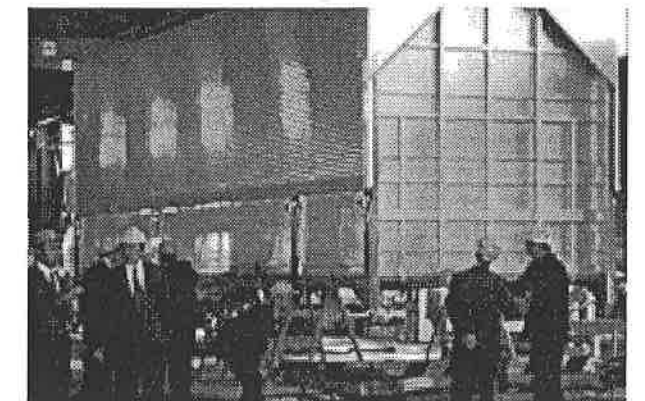
ホイール・ナットのトルク値を慎重に確認中

パン部会

■山田車体工業工場見学会を開催

パン部会（部会長・川本豊・日本フルハーフ(株)・取締役）では、2月29日研修会として沼津市にある山田車体工業(株)の各種パン車両、平ボデー、特殊車両の製造工程、塗装工程、部品製作の見学を行った。

昭和21年創業以来の高度な技術とノウハウは業界でも定評が高く、優れた車両の生産現場を見ることが出来、多種多様なユーザーニーズに応え、品質への取り組み姿勢など学ぶべきものが多く、有意義な研修会となった。



パン車両製造工程を熱心に見学

支部だより

2008年度 全国支部通常総会開催状況

支部名	月日	会場	支部長(所属事業所・役職)	来賓	車体工業会
北海道	5月16日	札幌第一ホテル	原 忠彦 (株)パブコ北海道 社長	(経)岡出製造産業課長、小林機械産業係長 (国)成瀬技術安全部長、越湖技術課長	橋本専務理事
東北	5月12日	仙台 エクセルホテル東急	磯野 栄治 (株)いそのポテター 社長	(国)多田技術安全部長、長谷川技術課長	橋本専務理事
新潟	4月22日	万代 シルバーホテル	北村 泰作 (株)北村製作所 社長	(国)佐藤技術安全部長、吉澤技術課長 小池専門官、佐々木首席専門官	比企副会長 橋本専務理事
関東	4月21日	浜松町・東京會館	荒井 直人 富士重工業(株) 執行役員	(国)板崎技術安全部長、田中技術課長	比企副会長 橋本専務理事
中部	5月16日	名古屋・通信会館	山崎 茂雄 (株)東海特装車 社長	(経)加藤製造産業課長補佐 (国)平川技術課長	比企副会長 花石事務局次長
近畿	5月9日	京都 センチュリーホテル	堀口 昇一 須河車体(株) 社長	(経)中川製造産業課長補佐 (国)山岸技術安全部長、勝田次長、 木村京都支局長、冠野(独)京都所長	久保地会長 今井技術部長
中国	5月19日	ホテル広島 ガーデンパレス	大上 力夫 (株)大上自動車工業 社長	(経)尾本地域経済課長、石崎基礎産業係長 (国)江坂技術安全部長、宋森技術課長	高木副会長 瓜谷事務局次長
四国	4月18日	ロイヤルパークホテル 高松	久保 哲也 (株)タダノ 執行役員	(経)能登地域経済部長、岡製造産業課長 (国)大野技術安全部長、芳野技術課長	田中副会長 橋本専務理事
九州	5月19日	福岡・八仙閣	矢野 羊祐 (株)矢野特殊自動車 会長	(経)山口産学官連携推進室長 (国)山村技術安全部長、清田技術課長 河合福岡支局長、監査専門官、福岡(独)九州検査部長	田中副会長 山口部長

(注)(経):経済産業省、(国)国土交通省、(独)自動車検査独立行政法人を示す

支部総会開催風景



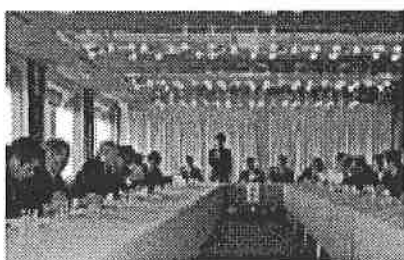
北海道支部



東北支部



新潟支部



関東支部



中部支部



近畿支部



中国支部



四国支部



九州支部

■中部支部

中部支部(支部長・山崎茂雄・(株)東海特装車取締役社長)では、4月17日に第33回役員会を開催し、2007年度の行事および収支決算報告、2008年度の事業計画および収支予算案の提案を行い、承認を得た。

また、正会員によるカバー率の向上に関連する本部の「支部運営規定」改定



官公庁だより

■「REACHに関する経済産業省作成解説書」について

—経済産業省—

経済産業省では事業者向けのREACHに関する解説書を作成した。また、本省の化学物質管理HPにREACHコーナーを解説し、本解説書なども掲載しているので、併せてご利用いただきたい。

EUでは欧州の新しい化学品規制(REACH規則:Registration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicals)が、本年6月1日から運用が開始される。本規則では、EUで物質(調剤中の物質も該当)を年間1トン以上製造、または輸入する事業者に対し、登録手続が義務付けられた(部品や最終製品でも、匂い付き消しゴムの匂い成分など意図的に放出される物質が含まれる場合は登録が必要)。EUへ輸出される事業者、またはユーザーがEUへ輸出される事業者はご注意ください。

詳細は、以下を参照のこと。

・REACHに関する解説書のURL

http://www.meti.go.jp/policy/chemical_management/int/files/reach/REACH080516.pdf

・REACHコーナーのURL

http://www.meti.go.jp/policy/chemical_management/int/reach.html

■「ねんきん特別便」に関する協力依頼について

—経済産業省—

今般、厚生労働省より、「ねんきん特別便」に関する周知・広報について協力依頼があった。

年金記録問題については、現在、一刻も早く年金記録を正しいものとするよう、政府を挙げてさまざまな取組みを進めている。

本年4月から10月にかけて順次「ねんきん特別便」をお送りし、年金記録を確認していただくことになっている。お送りした「ねんきん特別便」については、

に伴う「支部規約」の改定を提案し了承を得ると共に、当支部の会員状況報告と正会員化に対しての協力を要請した。

■近畿支部

近畿支部(支部長・堀口昇一・須河車体(株)取締役社長)は、5月9日に京都センチュリーホテルで第17回通常総会を開催後、(株)ビジネスブレイン太田昭和コンサルティング部 吉田部長を講師に招き、「内部統制は企業に何を求めているのか?内部統制の目的について」というテーマでご講演いただいた。会員には内部統制の大切さ・必要性を理解する有意義な講演となった。

一人一人に、ご自身の記録漏れや間違いがないかをきちんと確認し、必ずご回答いただきたい。



■「下請取引適正化特別推進月間」の実施について

—中小企業庁—

下請取引の適正化については、従来から下請代金支払遅延等防止法の厳正な運用と違反の未然防止、下請中小企業振興法に基づく振興基準の遵守の指導等を通じ、その推進を図ってきている。

本年4月、政府により取りまとめられた「成長力強化への早期実施策」の具体的施策においても、中小企業の体質強化を図るため、下請適正取引等の推進を徹底することとされた。この一環として、本年6月を「下請取引適正化特別推進月間」とし、以下の事業を行う。

1. 下請取引の適正化に関する普及・啓発

(1) 下請取引適正化特別推進講習会の開催

① 中小企業庁および公正取引委員会主催

② 全国中小企業取引振興協会主催(中小企業庁委託事業)

(2) その他

① 中小企業庁および公正取引委員会のホーム

ページおよびメールマガジンを通じた広報
②経済産業省施設にたれ幕を掲示
2. 普及・啓発事業の内容
(1) 請代金支払遅延等防止法及び下請中小企業振興法
(2) 下請適正取引等の推進のためのガイドライン
(3) 下請かけこみ寺
(4) ビジネス・マッチング・ステーション(BMS)
詳細は下記アドレスを参照
http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/torihiki/080516tokubutu_gekkan.htm

■「平成 20 年度中小企業支援計画」について
—中小企業庁—
国、都道府県等および独立行政法人中小企業基盤整備機構が連携・協力しつつ、それぞれの特性を活かして取組む中小企業支援事業について、これらの機関の実施する事業が互いに重複することなく計画的かつ効率的に実施されるよう、平成 20 年度中小企業支援計画を策定した。

- 【基本方針】
- (1) 経営力の向上、付加価値創造および事業継続、創業を柱とする生産性向上のための支援を中小企業行政の重要な政策課題と位置づけ。
 - (2) 国、都道府県(政令で指定する市を含む。以下同じ)および中小機構が、「対話と協力」という理念の下、緊密に連携し、支援施策の効果の最大化を目指す。
 - (3) 国、都道府県の連携体制を構築するため、「地域力連携拠点」事業等を中心として対話の場づくりを進める。
 - (4) 都道府県の支援計画およびこれに関する意見等が、国の平成 21 年度以降の支援施策および予算措置等に反映されるよう、国と都道府県の意見交換等を実施する。

平成 20 年度中小企業支援計画詳細は以下による。
<http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/kakushin/080418shienkeikaku.htm>

■「平成 20 年度中小企業施策利用ガイドブックおよびリーフレット」について

—中小企業庁—
中小企業庁では、中小企業施策を網羅的に紹介した「ガイドブック」や、施策分類ごとの支援策を簡単に紹介した「リーフレット」等の各種広報冊子を毎年度発行しており、今般、平成 20 年度版の「中小企業施策利用ガイドブック」および「リーフレット(13 種)」を発行した。
各冊子は以下のホームページからダウンロードが可能。
http://www.chusho.meti.go.jp/soudan/080425pamf_hakkou.html

■「不正改造車を排除する運動」を実施
—国土交通省—
国土交通省および自動車関係 32 団体が構成する「不正改造防止推進協議会」が中心となって、内閣府、警察庁、農林水産省、経済産業省、および環境省の後援ならびに自動車検査独立行政法人、軽自動車検査協会の協力のもとに本運動を実施する。

【実施期間】
「不正改造車を排除する運動」は、年間を通じた運動とするが、2008 年 6 月 1 日(日)から 6 月 30 日(月)までの 1 カ月間を「不正改造車排除強化月間」とし、特に重点をおいて運動を実施する。

【当会の対応】
当会としては、以下の資料を各支部経由で会員に配布、各資料を使用し、実施要領に沿って運動を実施する。

- ・「不正改造はしない」宣言書
- ・「不正改造車排除運動」実施ポスター
- ・「不正改造事例」ポスター
- ・チラシ
- ・「平成 20 年度版不正改造車排除マニュアル」

■自動車排出ガス規制の強化(ポスト新長期規制)について

—国土交通省—
国土交通省は、3 月 25 日付けで新車のトラック・バス、乗用車から排出される窒素酸化物(N₂O_x)および粒子状物質(P₂M)の更なる提言を図るため、世界最高水準の厳しい規制である、いわゆる「ポスト新長期規制」を制定した。
ポスト新長期規制の概要

対象車種	新車	新規生産者・輸入車
【ディーゼル車】 ・乗用車 ・軽自動車(1.7t) ・中量車の一部(2.5t<GVW≦3.5t) ・重量車の一部(12t<GVW) 【ガソリン車】 ・NOx触媒付ガソリン軽乗用車 【その他の燃料車】 ・乗用車 ・軽・中量車(GVW≦3.5t) ・重量車の一部(2.5t<GVW≦3.5t)	平成 21 年 10 月 1 日	平成 22 年 9 月 1 日
【ディーゼル車】 ・中量車の一部(1.7t<GVW≦2.5t) ・重量車の一部(3.5t<GVW≦12t) 【その他の燃料車】 ・重量車の一部(3.5t<GVW≦3.5t)	平成 21 年 10 月 1 日	平成 22 年 9 月 1 日



ディーゼル自動車

自動車の種別	測定方法及び単位	排出ガス基準値(型式認定車)				規制開始日
		PM	NO _x	NMHC	CO	
乗用車	VW≦1.255kg	0.005 (0.013) ▲62%	0.08 (0.14) ▲43%	0.024	0.63	新車H21年10月1日 新規生産輸入車H22年9月1日
	1.255kg<VW	0.005 (0.014) ▲64%	0.08 (0.15) ▲47%	0.024	0.63	※
トラック・バス	軽乗用車 (GVW≦1.700kg)	0.005 (0.013) ▲62%	0.08 (0.14) ▲43%	0.024	0.63	※
	中量車 (1.700kg<GVW≦3.500kg)	0.007 (0.015) ▲53%	0.15 (0.25) ▲40%	0.024	0.63	新車H22年10月1日 新規生産輸入車H23年9月1日
	重量車 (3.500kg<GVW≦12.000kg)	0.007 (0.015) ▲53%	0.15 (0.25) ▲40%	0.024	0.63	新車H21年10月1日 新規生産輸入車H22年9月1日
	重量車 (12.000kg<GVW)	0.010 (0.027) ▲63%	0.7 (1.0) ▲30%	0.17	2.22	新車H21年10月1日 新規生産輸入車H22年9月1日

ガソリン自動車 (NO_x 触媒付直噴車)

自動車の種別	測定方法及び単位	排出ガス基準値(型式認定車)				規制開始日
		PM	NO _x	NMHC	CO	
乗用車	VW≦1.255kg	0.005 (0.013) ▲62%	0.05	0.05	1.15	新車H21年10月1日 新規生産輸入車H23年9月1日
	1.255kg<VW	0.005 (0.014) ▲64%	0.05	0.05	1.15	※
トラック・バス	軽乗用車 (GVW≦1.700kg)	0.005 (0.013) ▲62%	0.05	0.05	1.15	※
	中量車 (1.700kg<GVW≦3.500kg)	0.007 (0.015) ▲53%	0.07	0.05	2.55	※
重量車 (3.500kg<GVW)	JE05モード (g/kWh)	0.010 (0.027) ▲63%	0.7 (1.0) ▲30%	0.23	16.0	※

注) 1. PMは粒子状物質、NO_xは窒素酸化物、NMHCは非メタン炭化水素、COは一酸化炭素を表す。
2. GVWは車両総重量(車両重量+乗車人員+最大積載量)、VWは車両重量を表す。
3. PM及びNO_xの規制値(中)の内の数値は改正前のものを、▲は低減率を表す。
4. NO_x触媒付直噴車とは、ガソリンを燃料とする吸排気系炭化水素還元触媒を装備した直接噴射式エンジンを備えたものをいう。

会 員 情 報

代表者変更
●正会員
(株)モリタエコノス 代表取締役社長 奥田 浩次郎
●準会員
旭硝子(株) 代表取締役社長 石村 和彦

社名変更
●準会員
豊通ランバー(株)→豊通紙パルプ建材(株)

社名・代表者・住所変更
●準会員
東京シンコー(株)→東京シンコーレーザ(株)
代表者: 代表取締役 長尾 達也
〒116-8533 東京都荒川区東日暮里 4-12-1
TEL 03-3803-0151 FAX 03-3803-6807

国土交通省地方運輸局		2008年5月19日現在					
局 別	運輸局長	自動車課長	技術課長	整備課長	保安・検査課長	管理課長	管理課長
北海道	江口 俊一	成瀬 隆一	越前 直美	・藤波 次朗	・藤森 晃	片倉 康治	
東北	内藤 政彦	多田 雅司	長谷川 茂	・千田 孝一	・高橋 和裕	庄子 政美	
北陸信越	有馬 一馬	佐藤 光秀	吉沢 定幸	・百瀬 勝文	・石山 晃	佐久間 昭昭	
関東	安原 敬祐	坂崎 龍介	田中 規内	志村 泰夫	中島 章	笠原 敏	
中部	中田 徹	浅野 忠信	平川 君男	小坂 源計	林 明広	高井 清茂	
近畿	各務 正人	山岸 重雄	藤田 裕隆	・福居 善一郎	・澤井 博政	橋本 勲	
中国	石津 輔	江坂 行弘	宋森 研造	・田中 龍夫	・新田 正美	新宅 博文	
四国	石丸 周象	大野 幹雄	芳野 徳三	・松岡 重幸	・高木 俊雄	・坪内 良雄	
九州	大黒 伊勢夫	山村 澄雄	清田 祐司	保利 昌宏	河野 幸泰	太田 孝次	
沖縄	—	運輸部長 大野 秀敏	車両安全課長 新里 勝	—	—	—	

(敬称略)

■「審査事務規程」の一部改正について
—自動車検査法人—

自動車検査法人は、審査事務規程の第 45 次改正を行い、緊急制動表示灯、座席および座席取付装置、乗降口扉の開放防止装置等の審査方法を改正および新設をした。(改正内容の全文は、自動車検査法人のホームページ <http://www.navi.go.jp/> を参照)

- 主な内容は、次のとおり。
1. 緊急制動表示灯の要件の新設
自動車の後方に対し急減速を知らせる緊急制動表示灯として、制動灯、補助制動灯または方向指示器等を使用することができる旨規定
 2. 座席および座席の取付装置の要件の改正
乗車定員 10 人未満の乗用車、乗車定員 10 人以下で車両総重量 5t 以下の乗合自動車及び貨物自動車に備える座席および座席の取付位置について、国連協定規則の技術要件を適用することを規定
 3. 乗降口の扉の開放防止装置の要件の改正
専ら乗用の用に供する乗車 10 人以下の自動車の乗降口の解放防止装置について、国連協定規則の技術要件を適用することを規定

入 会
●正会員
(株)井クイックサービス
代表者: 代表取締役 亀井 継克
〒486-0957 愛知県作日井市中野町 2-3-1
TEL 0568-31-4089 FAX 0568-32-7050
主要製品: アルミバン
事業内容: 鍛造品、機械加工品の製造・販売

退 会
●正会員
井上自工(株) (特装部会 4 月 25 日付)
(株)丸文 (トラック部会 4 月 30 日付)

移 転
●正会員
第一ボデー(株)
〒739-0443 広島県廿日市市沖塩屋 1-9-8
TEL 0829-50-0111 FAX 0829-50-0115

経済産業省地方経済産業局		2008年5月21日現在			
部 局	経済産業局別	車工金の相談窓口	部長 名	課長 名	
産 業 部	関 東	製造産業課	諸岡 秀行	田中 和茂	
	中 部	製造産業課	辻 信一	正木 朗	
	近 畿	製造産業課	赤井 誠次	八島 毅祐	
地域経済部	北海道	製造産業課	森本 英雄	岡田 直人	
	東 北	産業支援課	野田 耕一	竹田廣一郎	
	中 国	地域経済課	湯浅 憲義	尾本 哲朗	
	四 国	製造産業課	能登 靖	岡 弘昌	
	九 州	製造産業課	笹岡賢二郎	山田 真治	

(敬称略)

車体工業会活動報告

第 195 回理事会議事録

日時 2008 年 3 月 13 日 (木)

場所 当会会議室

議題 (審議事項)

第 1 号議案 評議員の変更に関する件

第 2 号議案 2008 年度事業計画 (案) (本部・部会) に関する件

第 3 号議案 2007 年度決算見込み (本部・部会) に関する件

第 4 号議案 2008 年度収支予算 (案) (本部・部会) に関する件

報告事項

1) 特装部会長の変更について

2) 2007 年度事業計画実績まとめ (本部・部会) について

①「温暖化対策」車体工業会取組みについて

② 2007 年度装置/部品等の共同開発および共通化の実績まとめについて

3) 2008 年度支部・部会総会計画 (案) について

4) 2008 年度第 3 8 回通常総会開催について

第 196 回理事会議事録

日時 2008 年 4 月 10 日 (木)

場所 当会会議室

審議事項

第 1 号議案 新入会員に関する件

第 2 号議案 理事の補充選任に関する件

第 3 号議案 2007 年度 (第 38 期) 事業報告に関する件

(1) 2007 年度事業報告概要

(2) 会員状況

(3) 会員会社の車体生産状況

(4) 本部活動状況

第 4 号議案 2007 年度収支決算 (本部・部会) に関する件

第 5 号議案 2008 年度 (第 39 期) 事業計画 (案) に関する件

(1) 2008 年度事業計画概要

(2) 本部計画詳細

(3) 部会計画詳細

(4) 支部別計画

第 6 号議案 2008 年度収支予算 (案) に関する件

報告事項

1) 2008 年度部会役員・委員会体制 (案) について

2) 60 周年記念車体産業史まとめについて

3) 2007 年度商用車販売実績について

4) 「架装物環境取組み」各部会への協力依頼について

5) 2008 年度車体工業会功労者表彰について

6) 2008 年度海外視察計画について

7) 日刊自動車新聞への当会記事掲載について

8) 車体 NEWS 原稿依頼一覧表

9) 2008 年度支部・部会総会計画について

月度活動状況

◆ 3 月 ◆

3 日 特装・技術委員会 当会

中央業務・会員拡大分科会 //

4 日 中央業務委員会 //

バス・ワンマン機器小委員会 神奈川

5 日 バン・技術委員会再帰反射材検討会 当会

バン & トラック・技術委員会合同会議 //

7 日 トラック部会役員会 //

10 日 バス・業務委員会 福岡

11 日 環境委・CO2 WG //

中央技術委員会 //

13 日 常任委員会 //

第 195 回理事会 //

環境委員会勉強会 くるまプラザ

17 日 トレーラ・サービス委員会 当会

18 日 特種・技術検討会 //

19 日 支部連絡会 //

21 日 バス塗装デザイン研究会 //

特装サービス委員会 //

トレーラ技術委員会 //

24 日 特装・クレーン車分科会 //

バン・業務委員会 //

25 日 環境・架装物リサイクル分科会 //

26 日 労務・車体部品調査 WG //

トレーラ業務委員会 //

27 日 労務・3 工業会事務局会議 //

バス技術委員会 東京

28 日 モーターショー企画委員会 当会

◆ 4 月 ◆

8 日 トラック部会 当会

トラック・役員会 //

9 日 バス・ワンマン機器小委員会 //

10 日 常任委員会 //

第 196 回理事会 //

小型部会総会 東京

11 日 バス・塗装デザイン研究会 当会

14 日 監査 //

トレーラ技術委員会 //

特装部会総会 東京

15 日 バス部会総会 京都

17 日 トラック部会総会 広島

特種部会総会 熊本

18 日 四国支部総会 香川

21 日 バン・トラック技術委員会合同会議 当会

関東支部総会 東京

22 日 環境・架装物リサイクル分科会 当会

新潟支部総会 新潟

23 日 トレーラ・サービス委員会 当会

24 日 特装・サービス委員会 //

バン部会総会 岐阜

25 日 バス・技術委員会 当会

特装・じん芥車技術分科会 //

28 日 資材・役員会 //

◆ 5 月 ◆

8 日 相談役会 当会

評議員会 //

トレーラ部会総会 //

9 日 特装・清掃車小委員会 //

特種・技術委員会 //

資材部会総会 東京

近畿支部総会 京都

14 日 中央技術委員会 当会

特装・粉粒体運搬車技術分科会 //

15 日 バス・ワンマン機器小委員会 //

バス・資材部会 埼玉

トレーラ・技術委員会 当会

特装・ダンプ車技術分科会 栃木

16 日 特装・クレーン技術分科会 当会

特装・ローリ技術分科会 //

北海道支部総会 札幌

中部支部総会 名古屋

19 日 特装・サービス委員会 当会

九州支部総会 福岡

中国支部総会 広島

20 日 中央技術・テールゲートリフタ技術分科会 当会

21 日 バス・技術委員会 //

23 日 第 38 回通常総会 東京

26 日 特装・ミキサー車技術分科会 当会

28 日 トレーラ・サービス委員会 東京

バス・業務委員会 当会

30 日 環境・架装物リサイクル分科会 //

広報・車体 NEWS 編集委員会 //

我が社の



2008.夏

多車種少量生産の工程を管理

セントラル自動車(株) 生産技術部 赤松 俊之さん

Q 1 どんなお仕事ですか?

自動車溶接工程の計画から立ち上げまでの業務をしています。

Q 2 仕事で楽しいときは

工場の特異性を考慮した工程検討を実施し、問題なく立ち上がった時。

Q 3 仕事でつらいこと

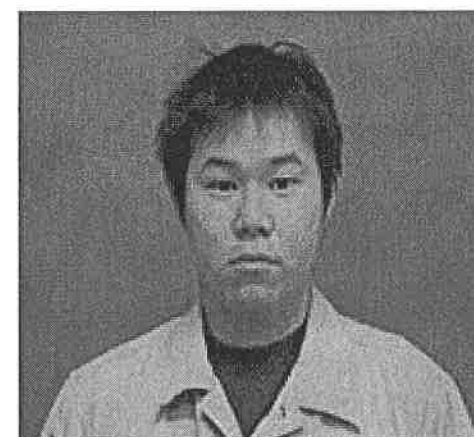
初期検討を十分行っても、思いどおりにならず後工程に迷惑をかけた時。

Q 4 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は?

自分の計画した治具が実際に物となって出来上がったこと。

Q 5 御社の P R をしてください!

トヨタブランドの車両を多車種少量ラインにて生産しています。



オーダーメイドでお客様の信頼に応えます

日通商事(株) 東京製作所 大神 信嗣さん



Q 1 どんなお仕事ですか?

オーダーメイドで製作するトレーラと特装車の営業をしています。

Q 2 仕事で楽しいときは

お客様に提案した内容で「君にこの仕事を一任する」といわれたときはうれしかったです。

Q 3 仕事でつらいこと

お客様から質問を受けたことについて、知識不足で答えられない時。

Q 4 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は?

完成した車軸の検収を受けたとき「よく出来てますね」と喜んでいただいたこと。

Q 5 御社の P R をしてください!

創造と改革、誠実と感謝でお客様の要望に応えられるように頑張っています。

中央業務委員会

「不正な二次架装」の根絶、定着に尽力
中小企業経営支援等にも取り組む

1. 組織

比企委員長以下、各部会（小型・資材以外）業務委員会の正副委員長と本部事務局の合計 18 名の委員で運営している委員会。また、以下に示す 3 分科会を設定し、分科会長を中心にして各課題を論議、進捗している。

中央業務委員会（18 名）

分科会	役 職	氏 名	所属部会	会 社 名
対 法 制・税 制 分 科 会	分科会長	田村 元	トラック	(株)浜名ワークス
		久垣 敏彦	特装	東急車輛製造(株)
		北村 守	特種	(資) 中北車体工作所
		澤 正博	トレーラ	東急車輛製造(株)
		山田 善雄	トラック	山田車体工業(株)
根 絶 不 正 改 造 分 科 会	分科会長	木俣 冊	トレーラ	日本フルハーフ(株)
		加藤 寛	トラック	(株)相模ボデー
		三宅 勝一	特装	カヤバ工業(株)
		伊藤 公一	特種	名自車体(株)
		木下 正之	バン	日本フルハーフ(株)
		平井 康夫	バス	三菱ふそうバス製造(株)
分 科 会 会 員 拡 大	分科会長	保志 隆平	特種	ヤナセテック(株)
		安藤 潔	バス	西日本車体工業(株)
		澤田 光明	特装	新明和工業(株)
		多田野 純	〃	(株)タダノ
		河野 正哉	バン	(株)トランテックス
事務局		瓜谷 優一	—	車体工業会

2. 活動内容

一昨年来、「不正な二次架装の根絶」を車体工業会の最優先課題として中央業務委員会を中心に取組んできた。これまでの活動結果、販売店営業マンからの改造要請も昨年度下期調査ではゼロとなり、根絶できたと判断した。

このため、2008 年度から「不正な二次架装の根絶」

のアピールは続けるが、「中小企業経営支援等」を第一優先にして分科会活動を実施していく。各分科会の活動内容は以下のとおり。

(1) 法制・税制対応分科会

昨年度までは「規制緩和対応分科会」として活動してきたが、本年より、「厳しい経営環境が続いている中、中小企業経営に関する支援策等の検討と支援情報の展開の充実を行う」ことを狙いに以下の活動を実施する。

- ①中小企業庁等、官公庁情報のタイムリーな展開
- ②中小企業関係および自動車関係に関する法制・税制への要望活動参画
- ③原材料費の調査

(2) 不正改造根絶分科会

不正改造根絶活動を実施してきた結果、会員、デラーからは不正な二次架装の根絶が確認できた。確実なる定着のため継続して以下の活動を行う。

- ①会員企業へのコンプライアンス徹底
- ②非会員、ユーザーを含めた不正改造の根絶、定着のための活動継続

(3) 会員拡大分科会

当会が各種活動を進める上で、数、カバー率は大変重要である。このため以下項目の推進を図っていく。

- ①未入会会社への勧誘進捗
- ②非会員リストの充実
- ③各部会活動の魅力分析とまとめ

部会・委員会紹介 / 委員長インタビュー

中央業務委員会

比企 能信 委員長 に聞く

(日本フルハーフ(株)取締役社長)

「不正な二次架装要望」を根絶 さらなるアピール活動を継続

●「不正な二次架装の根絶」への対応状況等はいかがですか。

当会では「不正な二次架装の根絶」を最優先課題として掲げ、この 2 年間、本委員会で進捗を図ってきました。重点活動の結果 2006 年度には支部会員を含め「不正な二次架装を行っていない／関わらないこと」の確認が取れ、また、2007 年度には「販売会社からの不正な二次架装の要望がなくなったこと」の確認ができました。

しかしながら、まだ一部ユーザーから要望があること、また車体架装業界からの根絶を目指して継続した PR 活動を実施することは必要と考えています。このため次の活動を継続して行っています。

- (1) 車体業界全体とユーザーに「不正な二次架装の根絶」をアピール
- (2) 6 月の「不正改造車を排除する運動」強化月間に参画
- (3) 会員企業へのコンプライアンス徹底の仕組み導入支援

●中央業務委員会の主要課題、取り組みについて教えてください。

先ほどの「不正な二次架装の根絶」への対応状況の中で述べましたが、販売会社からの要望が無くなったことが確認できたので、本年度からは、厳しい経営環境が続いている中小企業経営に関する支援策等の検討と支援情報展開の充実を最優先課題として行っています。

他に、広範囲にわたる会員拡大も重要と考えています。昨年度、売上高でのカバー率を検証しましたが、数においてもカバー率の向上は必要ですので、未入会会社への勧誘を積極的に実施していきたいと考えます。

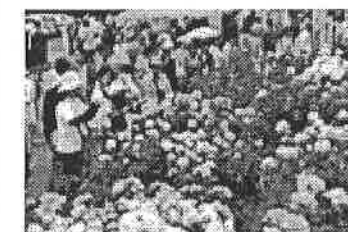


●委員長個人としての会社の内容、特徴などの紹介をお願いいたします。

当社は、輸送用機器分野において一貫してお客様の満足を大切に、先進の技術で果敢に挑戦し続けています。

近年、輸送分野においては、安全輸送、環境対応、輸送品質、輸送効率など多くの課題がありますが、今後もさらに現場現物を中心にして事業を正しく捉え、これらの課題解決に取組み、環境と社会に広く貢献する企業を目指していきます。

また、毎年 5 月に本社（厚木）で「バラ観賞会」を開催しています。近隣の人から関東圏内はもちろん、甲信越、関西の方までご来場いただき、約 300 種類、800 本のバラを観賞していただき、地域との交流を積極的に行っています。



Profile

◆業務経歴

1968 年 4 月 日本軽金属(株) 入社
1997 年 6 月 同社 取締役 就任
2004 年 6 月 同社 専務執行役員 就任
2005 年 6 月 日本フルハーフ(株) 代表取締役社長 就任

◆車工会歴

2007 年 4 月 理事 就任
副会長、中央業務委員会委員長
支部連絡会委員長 就任

◆趣味・嗜好

ゴルフ、散歩

◆人物評

大きな身体からは、みなぎるパワーとチャレンジ精神が溢れています。常に従業員の達成感を大切に、感謝の気持ちを持って接しておられます。仕事に対しては思慮深く、厳しい一面もあり、知恵とチームワークを結集した成果が求められております。温和な性格から人脈も広く、休日には大好きなゴルフを楽しんでおられます。



NET WORK

会員会社紹介 Vol.53

新工場完成で時代に添った 生産体制を確立

東京都内から熊本空港まで約2時間。空港からタクシーで5分ほど、大津工業団地は阿蘇外輪山の麓にある。その工業団地の中に真新しいイズミ車体製作所の工場があった。

取材／(株)日本自動車車体工業会 事務局次長 瓜谷優一

株式会社 イズミ車体製作所

DATA

■本社

〒869-1222 熊本県菊池郡

大津町大字岩坂 3258-4

TEL 096-279-1733

FAX 096-279-1666

■資本金 4,300 万円

■従業員 60 名

■事業所規模

工場 約 23,300 m²

■車体工業会加入

1997 年 (特種部会)



代表取締役
古庄 忠信

特 徴 沿革

(株)イズミ車体製作所は、昨年 12 月に工場を阿蘇外輪山の麓にある工業団地に新設移転した。旧工場に比べるとその敷地面積は、実に 4 倍になるという。

今回の工場新設の目的は、旧工場が手狭になったことの他に「第 3 の特種車両」を生産したいという古庄社長の思いがある。

1931 年の創業以来、福祉車両、医療関連車などをメインに業績を伸ばし、1951 年に有限会社イズミ車体製作所を設立、1995 年には株式会社へと組織を変更した。

1981 年に福祉車両 (リフトバス) の製造を開始、現在では多様化するお客様のニーズに対応したオーダーメイドで高品質な車両を

製作。お客様から高い信頼を得ている。

しかし車体業界は厳しい時代を迎えている。古庄社長は「時代は変化しますが、その時代に必要とされるカスタマイズ車両がなくなることはありません。時代に添った対応、製作ができれば社会の要求に応えられます」と語る。新工場の設立は、そうした時代の流れにも応えられる工場であり、高品質の車両を効率よく生産する体制も整った。

同社では、車両製造の他に車検業務も行っている。特装車の車検をするために必要となり、認証工場として認証を受け、地域のお客様に喜んでいただければと一般車両の車検も取り扱っている。

敷地の約 4 分の 1 には走行試験用のテストコースも備わっている。ここは年に 1 回、福祉関係の施設を招いての運動会のグラウンドとしても活用される。

「まごころ」で接することが大事と語る古庄社長。その思いはお客様だけでなく、従業員、地域へと注がれ、しづくりにも反映されている。



製 品

——御社で製作している主力製品についてお聞かせください

古庄社長 医療関連車両、特装車、福祉車両などの開発・製作を手掛けています。

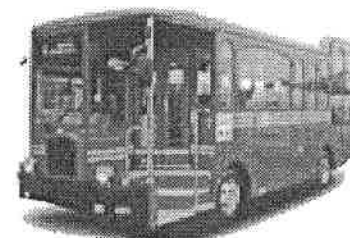
——新工場と旧工場で大きく変わった点は?

大型・中型用の塗装ブースが大きく変わりました。以前は塗装の際に塵、ホコリなどが着きやすく取り除くのに大変な能力と神経、時間を要していました。

新工場では、上部から吸気し、下に排気するシステムとなり、塵が塗装面に付着しないようになっています。高さを自由に調整出来るリフトもブース両側に設置し、高品質の塗装が効率よく出来る設備となりました。

レトロバス

お客様のニーズに合わせたオーダーメイドの路線バス



テストコースからは阿蘇外輪山が一望できる



オーダーメイドへのこだわりは、作業する従業員の真摯な姿からもうかがえる

その他にも漏水検査機、車両重量計など各種検査機も備えています。

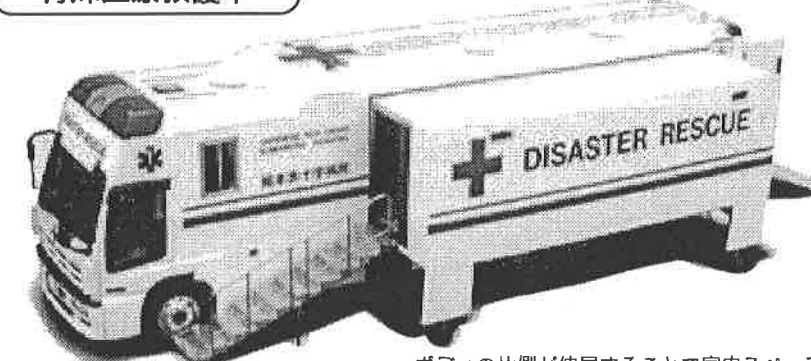
——今後の抱負、御社のモットーなどをお聞かせください

新工場を設立したことで、例えば仕事が集中する時期に、どうしてもできなくてお断りしていた注文や、旧工場の立地の悪さのために生産効率が悪かったことなどが解決されました。これからはあらゆる要望に対応したいと考え、営業面でも着々と進行中です。

また技術・生産面でもお客様のニーズに応えられるだけの力を養うことが大切で、若い従業員の教育にも力を注いでいます。

阿蘇に負けたくない会社を目指し、九州での知名度を上げていきたいですね。

特殊医療救護車

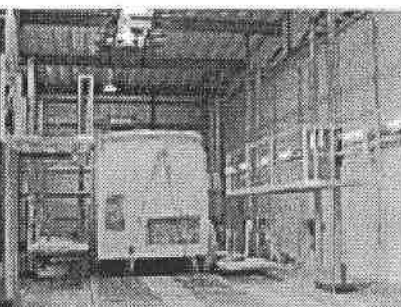


ボディの片側が伸展することで室内スペースが大幅に拡張する「拡幅車」をベースに処置台、无影灯、医療機器類を搭載している

人

——従業員の特徴は? どんなに忙しくても手を抜かない風潮が、従業員の中にあります。会社としてみれば、時に生産性、効率性が悪く儲からない仕事と考えますが、逆に当社では貴重な財産であると思っています。従業員の根底にある「カスタマイズ」に対する信念は、大切にしたいですね。

——従業員とのコミュニケーションなどはどうされていますか
月に一度、朝礼を行い、その時々のテーマで、1 時間ほど話しています。従業員全体に知っておいてほしいこと、共有しておきたいこ



塗装ブースには、作業用のリフトが設置されている



検査棟の中にある車検場。一般の乗用車の車検も行われている

となど、わかりやすく話すようにしています。

またお礼はお弁当持参で社員食堂に通っています。仕事やプライベートのことなど、皆でわいわい話をしながら食事をしています。

——従業員の高齢化に向けた対策は?

会社と現場が必要と考えた人には「マイスター」として定年後も働いてもらっています。これは当社特有の制度で、地元の商工会議所からも注目をされています。若い従業員にもよい刺激になっています。

そこが知りたい

第4回

自動車検査の高度化とは?

2008年1月から自動車検査手数料が値上げされた。その理由の1つに自動車検査場での「検査を高度化」し、不正改造、不正車検を防ぐことが上げられている。その第一弾として、品川検査場の設備が新しくなった。今回は新設備やその仕組みなどを紹介する。

■自動車検査法人とは?

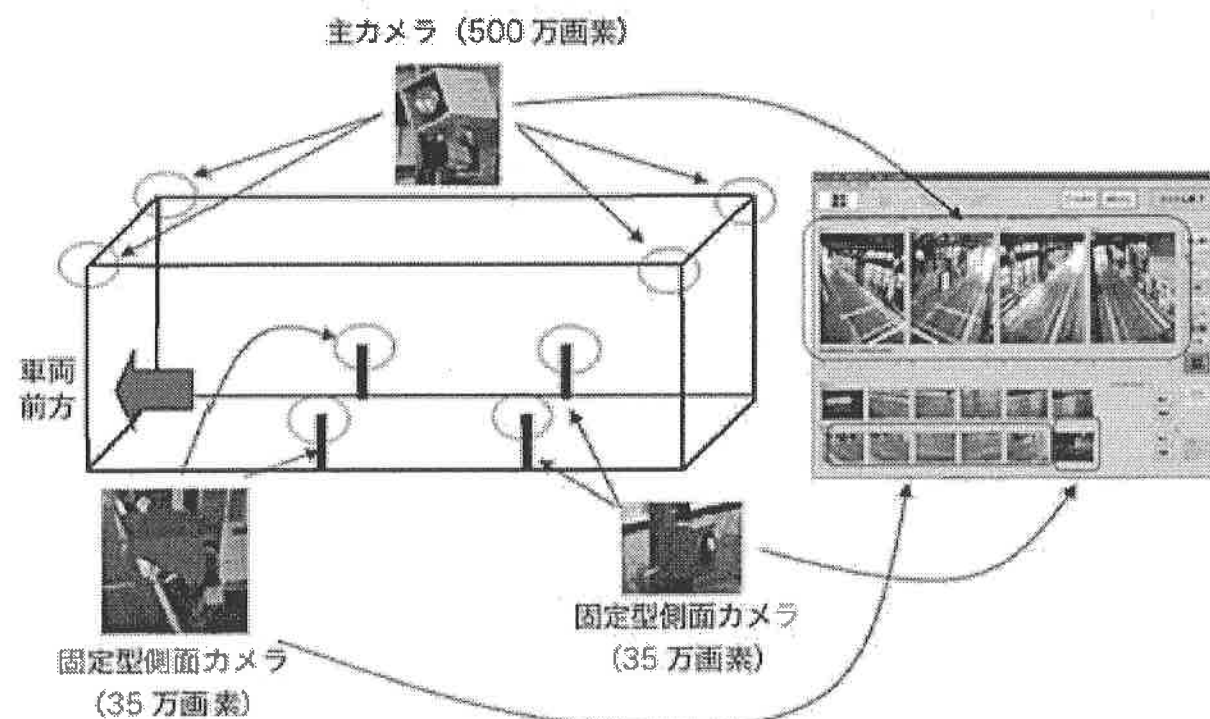
自動車検査法人は、自動車が保安基準に適合するかどうかの審査業務を行うことにより、自動車の安全確保と環境保全を図ることを目的として、平成14年7月に設立された独立行政法人。

■関東検査部(品川検査場)

住所:〒140-0011 東京都品川区大井1丁目12-7
電話:03-5796-0290
検査時間:9:00~12:00 13:00~16:00
ホームページ:<http://www.navi.go.jp/office/kanto>

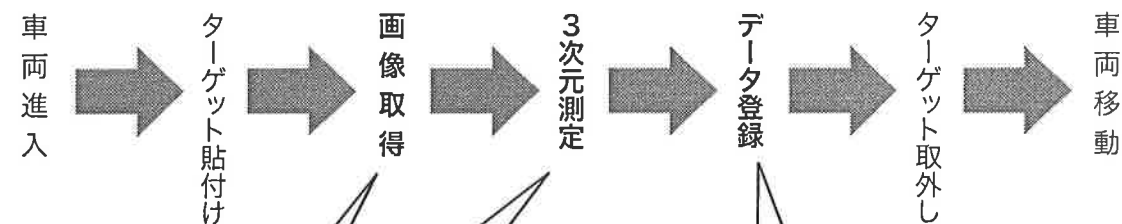
■自動車審査高度化施設の概要は?

自動車検査の高度化とは、情報技術(I T)を駆使した新技術を活用し、電子化・情報化に対応した車両検査施設の導入により、機械化・電子化を推進しようとするものである。自動車審査高度化施設の一部として運用される3次元測定・画像取得装置は、高精度な計測と車両画像情報の電子的な取得を可能とし、車両のデータベース化を実現した。この情報を継続検査(いわゆる車検)・構造等変更検査・街灯検査等で有効に活用することで、自動車検査の高度化の実現に大いに貢献すると期待されている。

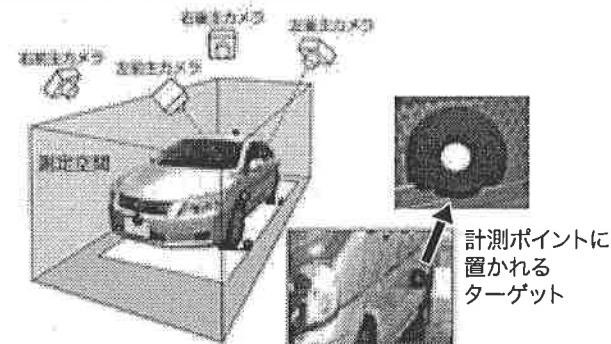


■どのような手順で測定されるのか

検査職員1人で従来以上の精度での測定が可能となった。その手順は次のとおり。



高精度な3次元画像計測技術



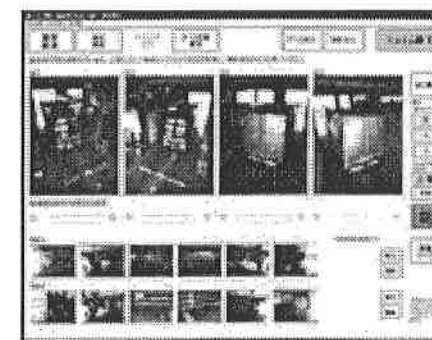
8台のデジタルカメラを設置し、最長12メートルの自動車について、高精度な測定を実現した画期的な装置。カメラを利用し、三角測量の原理を用いて、計測ポイントに付けられたターゲットの空間座標を算出、車両諸元を測定している。ターゲットは外光や路面反射と区別する非反射分離帯を有する超軽量再帰性反射板でできており、粘着シートや磁石で付けて使用する。

車両画像の同時撮影

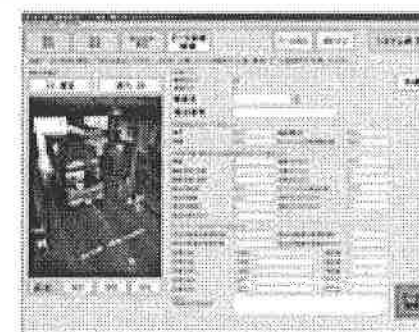
架装状況などについては、8台のデジタルカメラでの撮影に加え、見えにくい場所は手持ちデジタルカメラを併用、車両画像を撮影していく。



撮影画面(イメージ)



登録画面(イメージ)



自動車審査高度化施設に期待される効果

- 1.不正改造車の排除**
新規検査データを継続検査や街頭検査等で活用することで、不正改造車を確実に排除する。
- 2.リコールにつながる車両不具合の抽出**
検査データの収集・分析により、リコールにつながる車両不具合を抽出。
- 3.検査データの電化による不正車検の防止**
検査データを電子的に取得することで、受験者による検査表の偽造、改ざんなどの不正車検を防止。
- 4.指定整備工場に対する効果的・効率的な指導・監督**
受験車両情報等を監督工場選定に活用する等、IT技術の利用により、指導・監督を効果的・効率的なものとする。
- 5.ユーザーの点検・整備の励行**
ユーザーへの審査結果記録表の提供により、点検・整備の励行を図る。

■今後の展開について

3次元測定・画像取得装置は、既に全国31カ所(2007年度)の検査部、事務所に設置されており、本年度中に、その他の検査部・事務所にも導入予定。2008年4月以降、各検査部・事務所内での職員研修を実施し、関係業界への紹介、運用方法を定める審査事務規程等の整備を行った後、夏頃を目処に運用開始予定。



Coffee Break

Member's essay

ボランティアは消防団活動

新明和工業(株) 益田 英明

消防団は、本業を持ちながら「自分達の街は自分達で守る」という精神に基づき地域の安全と安心を守るために活躍している人達の集まる市町村の消防機関の一つです。

私は東京都日野市の消防団に所属、消防や防災、更には応急に関する知識や技術を習得し、火災発生時におけるポンプ車による消火活動、地震や水害や列車事故といった大規模災害想定にて救助救出活動訓練、警戒巡視、避難誘導、災害防御活動などに従事しています。

火災現場へ向かう途中の心臓の高鳴り、深夜の消火活動や撤収作業、真夏の訓練等、辛いものもありますが、達成感も格別です。

近年は異常気象から大災害に繋がるケースが多く、また首都圏には、直下型大地震が何時きても不思議ではないのと、更に社会そのものが高齢化に突入しています。

いざという時の安心と安全のために常日頃からの訓練の他、住宅への防火指導、特別警戒応急手当の普及指導、広報活動に務め地域における消防力、防災力の向上に重要な役割を担っています。



放水風景



右端が筆者

読書と本の収集

ヤナセテック(株) 保志 隆平

子供の頃から、本を読むのが好きであった。マンガ本を毎週買い、毎号毎号捨てずに1年間分を集め、書棚に綺麗に並べて喜んでた。母親からは「くだらないマンガ本を残しておいてどうするの、捨てなさい」と小言を言われたが、集め続けた。

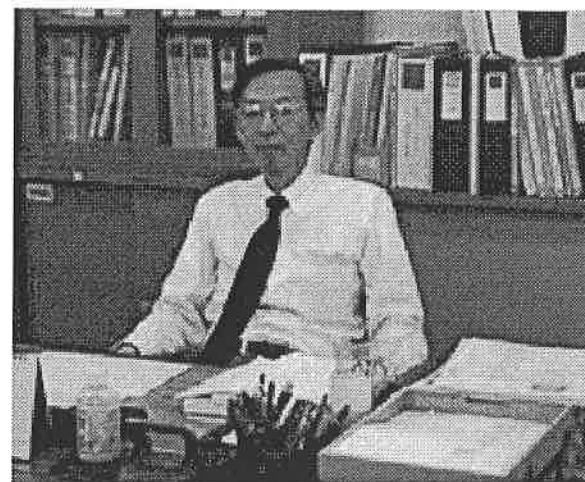
小学校高学年からは小説も読み出した。分野はばらばらで、興味があれば何でも読んでいたが、SFとの出会いは、家族旅行に行く駅のホームの売店で買ったSFマガジンの増刊号であった。

大学に入り、受験勉強から開放され時間の余裕ができ本の収集を本格的に再開した。この1~2年間で一番本を読んでた。しかし、ゼミ、卒論などに時間を取られ徐々に読書量が減ってきた。

社会人となり読書時間は、平日の通勤時間帯と休日ぐらいで、飲む機会も増え限られてきた。新入社員時は、1年間通勤が許可されていなかったのも、自宅から西武新宿線、JR山の手線東急東横線乗り継ぎ1時間半の電車通勤であった。まだ、この頃は、SF小説や漫画雑誌を読んでいたので、通勤時間は良い読書時間として活用できていた。

1年を過ぎ車通勤に変わると、読書する時間が徐々に減っていた。仕事も忙しくなったこともあり、小説を楽しむ精神的余裕がなくなってきていたのかもしれない。

ビジネス書や仕事関係を除き自分で好きな分野の物は、よほど興味が湧かない本しか買わなくなりました。本は初刊時に購入しないと再販されず、新刊で手に入れることが非常に難しくなる。特に、私が好きな分野(SF、ハードボイルド、架空戦記)は、その傾向が強いと思われる。そのため、学生時代の一時期、好きな大藪春彦の手に入っていない新刊本を神田や早稲田の古本屋街を一軒一軒風流しに廻って



集めたものだ。

現在も、家には大藪の蔵書として、百数十冊それ以外含め三百冊近くあり家族からは邪魔者扱いとなっている。しかし、趣味らしい趣味もなく、履歴書に書く際も「読書」しかないし、好き分野がマイナーで、家族からは何が面白いのかとの批判を受けつつも、本の収集は、止められないであろう。

最近、興味を引く作家としては、佐藤大輔、横山信義、大石英司などがいるが、購入していない新刊本も多く、現役引退後、各作家の本を古本屋街へ探しに行くのも楽しみのひとつである。

将来、子供たちが巣立ち自分の書斎を確保し、収集した本を書棚に整理し自分だけの図書館として眺めるのも楽しみである。

しかし、多分、現実そんなに甘くなく、空いた子供部屋は、帰省時の孫達の遊び場になるであろうと予想される。現在の住宅事情で、自分の書斎をもつことは儚い夢なのかもしれない。

舞踏会場のダンス

㈱豊田自動織機 藤田 麻弓

ボールルームダンスってご存知ですか。ずばり、社交ダンスのことです。舞踏会場で踊るための歴史ある優雅なダンスです。

がっちり体型の私は「スポーツ入社？」と言われて続けましたが、実はダンスセンスはおろか、運動神経ゼロ。そのくせ習い事マニアで、バレエからテニスまでいろいろ試しましたが、上手くなるどころか、ついていけません。そのうち、子育てに突入し7年

経過。昨年、復活させた習い事が偶然、社交ダンスでした。

はまったのは「タンゴ」。男女のペアが離れずびっちり組んで踊る種目の一つです。理由は、男性のリードに任せるだけで女性も上手くなる(気分になる)からです。女性の方が衣装も華やかで動きも派手ですが、重要なのはとにかく男性。女性は男性に頼って任せれば良いし、男性は紳士的に女性をリードします。なんだか、古き良きヨーロッパの男女の姿ではありませんか。

男性はいろんな意味で楽しいと思います。男性の割合がかなり低いので、もてます！女性には衣装。練習着はどんなに派手でも浮きません。逆にトレーニングウェアでもOK。華やかな衣装は高価と思いきや、意外に安いのです。ちなみに、私は古着を活用しています。

あとは、何歳からでも始められる良さがあります。一般に高齢のスポーツの達人は、やはり若い頃から続けている人です。でも、社交ダンスは本当に何歳から始めても、体を傷めず、練習で上達の実感が得られます。同じタンゴでも、初心者と上級者は型もステップも全然違うので奥が深いのです。



息子さんと「ハイポーズ！」

ただいま私、競技会に向けペア募集中です。主人は全くやりませんので、将来ペアにと6歳の息子にちびっこレッスンを始めさせました。母の思惑も知らず、喜んで通っています。でも、息子が私の身長+ヒールの175cm以上になるのは10年先。こうなったら、男に転向して(実際に競技会でOK)若いお姉ちゃんとペアを組もうかしらと本気で妄想する、今日この頃です。

レコードが奏でる至福の時間

（株）五光製作所 橋本 更



私がレコードに興味を持ち始めたのは、中学生の頃である。当時、わが家には簡単なモノラルのハイファイセットがあった。ウィнна・ワルツのレコードを聞いて、感動したのが最初で、しばらくはクラシックのレコードを聞いていた。

夏でも部屋の窓とカーテンを閉め

切って、割と大きな音量で、汗を流しながら一人聞き入っていた。人が見たら異様な光景に映ったかもしれない。

既に、ステレオレコードおよびステレオ装置が市販されていた。当時「音楽の友社」から暮れのボーナスシーズンに合わせて「ステレオのすべて」という季刊紙が発行されていた。これには、価格帯別に、プレイヤー、アンプ、スピーカーの組合せが紹介されていて、私はこの本を毎年購入し、自分の将来のステレオ装置の組合せ例をイメージすることで、しばらくは現状のモノラルの装置で我慢していた。

大学へ入学して、父が待望のステレオ装置を買ってくれた。以後、レコードプレイヤーとアンプは何度か買い替えたが、スピーカーだけは40年間経った現在も変わっていない。

購入してしばらくは、使いこなす大変苦労した。なかなかいい音で鳴ってくれないのである。スピーカーの高音、中高音のレベル調整、設置場所、カートリッジとの相性、スピーカーコードなど、いろいろいじくりまわった。現在は、落ち着いて満足して聞いている。

LPレコードのコレクションは、大学入学してから30歳で結婚するまでに購入したものが多い。銀座のヤマハや、山野楽器店へよく出かけた。特にヤマハは、どこか品が良く、育ちの良さそうな女性の店員がいたので、足も自然とヤマハの方へ向いてしまう。

ある日、ヤマハのジャズレコードのコーナーで1枚のレコードが目止まった。黒いジャケットで、真ん中に昔流行った黄色のスマイルバッジが描かれている。面白そうなので購入し、早速針を落として聞いてみた。これが、なかなかいいのである。演奏は、オスカーピーターソンのピアノトリオで、ロンドンハウスというジャズ・クラブの実況録音盤なので、話し声や食器の当たる音も入っているが、それが自然で、大変リラックスした暖かい雰囲気を醸し出していた。

以後、私はジャズも好きになってしまった。従って、私のレコードコレクションも、クラシックとジャズが主体で、流行歌、演歌およびアイドル系には全く興味がなかった。

つまり、私の週末のリラックスタイムを紹介すると、こんな具合になる。

帰宅し、入浴後冷えたビールを飲んで夕食を済ませ、ほろ酔い加減になったところでアンプのスイッチを入れる。オーディオ・システムがウォーミングアップする間、これから聞くレコードの選択をする。ターンテーブルにレコードを載せ、ゆっくりと針を落とす。2つのスピーカーの真ん中に正対して座り、静かに開演を待つ。私の至福の時間のスタートである。

シンフォニーの場合は、左手に繊細な響きを奏でるバイオリン群、右手に低音を響かすコントラバス群、バックに明るい響きの管楽器群、更に、上段奥に打楽器群、これら渾然となって雄大で奥行きのある圧倒的なスケールで目の前に展開する。

女性ジャズボーカルの場合は、2つのスピーカーの真ん中で、口の動きがわかるほどリアルにチャミングな女性が歌いかけてくる。「素敵だ！ カワイイ！」

そして、ジャズ・ピアノトリオの場合は、真ん中にスイングするピアノ、左手にシンバルをブラシで叩くクールな響き、そして右側にはベースが低音のリズムを刻む。三者が一体となって、ドライブすると、こちらもいつの間にか足で調子を取ってしまっている。「もう最高！ 水割りも旨い！」

夜もだいたい更けてきた。家内はとくに寝てしまっている。

トラック車体 2008年1月～3月 生産台数

		1月						2月						3月					
用途		大型	中型	小型	軽	合計	対前年同月比(%)	大型	中型	小型	軽	合計	対前年同月比(%)	大型	中型	小型	軽	合計	対前年同月比(%)
運転台	普通	13	101	4,798	0	4,912	160.3	30	208	5,563	0	5,801	120.1	26	212	5,794	0	6,032	126.9
	特殊	35	10	5,351	0	5,396	120.7	2	4	5,997	0	6,003	126.7	2	9	6,177	0	6,188	120.9
合計		48	111	10,149	0	10,308	136.8	32	212	11,560	0	11,804	123.3	28	221	11,971	0	12,220	123.8
対前年同月比(%)		58.5	176.2	137.3	0.0	136.8		64.0	316.4	122.3	0.0	123.3		46.7	356.5	122.8	0.0	123.8	

標準型(シャシメーカー標準型)		4	251	2,451	0	2,706	129.6	3	284	2,485	0	2,773	86.8	6	278	2,379	0	2,663	74.2
普通	アルミブロック	40	94	5	0	139	85.3	45	115	16	0	176	89.8	76	121	10	0	207	77.2
	スタンダード(木製)	22	158	19	0	199	117.8	49	304	9	0	362	138.2	39	335	23	0	397	138.3
	その他(スチール、コルゲート等)	3	0	1	0	4	16.0	6	0	1	0	7	30.4	5	1	0	0	6	11.5
	アルミブロック	86	124	25	0	235	70.6	116	160	37	0	313	78.8	157	226	52	0	435	90.6
通	スタンダード(木製)	7	0	0	0	7	100.0	4	4	1	0	9	47.4	9	2	6	0	17	63.0
	その他(スチール、コルゲート等)	9	0	2	0	11	220.0	5	0	3	0	8	80.0	8	2	1	0	11	84.6
荷	チップ運搬車	1	0	0	0	1	33.3	4	0	0	0	4	80.0	5	0	0	0	5	100.0
	オートバイ積	2	1	0	0	3	75.0	2	3	5	0	10	1,000.0	1	1	5	0	7	100.0
	1台積	0	25	158	0	183	86.7	3	25	171	0	199	95.2	1	32	224	0	257	87.4
	2台積	0	11	5	0	16	177.8	0	12	2	0	14	93.3	0	16	5	0	21	110.5
台	3台積	5	7	0	0	12	150.0	3	5	0	0	8	80.0	3	3	0	0	6	66.7
	4台積以上	11	0	2	0	13	68.4	15	0	0	0	15	75.0	23	0	0	0	23	88.5
	セミトラクタ	7	0	0	0	7	116.7	9	0	0	0	9	112.5	14	0	0	0	14	175.0
	フルトラクタ	0	0	0	0	0	0.0	2	0	0	0	2	0.0	3	0	0	0	3	150.0
平	車輻輳用トラクタ	25	1	0	0	26	52.0	23	2	0	0	25	51.0	45	2	0	0	47	100.0
	産業機械	30	4	0	0	34	81.0	22	26	1	0	49	122.5	19	26	1	0	46	102.2
	運搬車	9	1	0	0	10	250.0	10	1	1	0	12	109.1	5	0	0	0	5	31.3
	その他	0	0	0	0	0	0.0	0	1	0	0	1	50.0	1	1	0	0	2	—
ボ	側面開放車(幌装)	27	53	0	0	80	76.2	35	63	0	0	98	76.0	31	80	2	0	113	87.6
	カーテン式	1	4	4	0	9	100.0	3	1	0	0	4	30.8	2	2	5	0	9	60.0
	コンテナ兼用車	2	0	0	0	2	—	1	0	0	0	1	50.0	5	0	0	0	5	166.7
	脱着ボデー	2	0	0	0	2	200.0	2	0	0	0	2	—	1	2	0	0	3	300.0
デ	その他	6	9	83	0	98	136.1	8	4	67	3	82	356.5	13	9	77	0	99	90.8
	合計	299	743	2,755	0	3,797	113.9	370	1,010	2,800	3	4,183	90.1	472	1,139	2,790	0	4,401	80.7
対前年同月比(%)		66.4	94.6	131.3	0.0	113.9		68.3	101.2	90.3	—	90.1		67.0	102.3	76.8	0.0	80.7	

乗用車及び商用車車体 2008年1月～3月 生産台数

		1月	対前年同月比(%)	2月	対前年同月比(%)	3月	対前年同月比(%)
乗用車	セダンタイプ	60,049	98.7	66,293	98.2	62,567	89.4
	ステーションワゴン	52,775	102.9	60,635	100.4	60,338	95.9
	ミニバンタイプ	4,962	70.9	4,423	63.7	5,917	66.5
	オフロードタイプ	29,376	116.8	32,740	116.4	32,948	110.5
	キャブオーバーバードタイプ	28,208	100.8	32,527	105.6	31,623	96.5
商用車	ツープボックスバン	4,321	80.1	4,480	90.9	5,697	139.7
	キャブオーバーバン	12,458	106.1	15,172	111.7	15,098	106.5
	キャブオーバートラック	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	ボンネットトラック(シングルキャブ)	1,745	149.8	2,102	120.6	2,026	113.0
	ボンネットトラック(ダブルキャブ)	4,986	123.6	5,778	137.5	5,776	126.9
合計		198,880	102.2	224,150	102.7	221,990	96.9

特装車車体 2008 年 1 月～3 月 生産台数

車 種		1 月							2 月							3 月							(単位:台)
		基準 外	大型	中型	小型	軽	合計	対前年 同月比(%)	基準 外	大型	中型	小型	軽	合計	対前年 同月比(%)	基準 外	大型	中型	小型	軽	合計	対前年 同月比(%)	
ダンプ車	リヤダンプ	0	546	571	1,068	216	2,403	90.7	0	667	790	1,216	336	3,009	85.5	0	723	768	1,439	277	3,207	81.1	
	三転ダンプ	0	0	4	19	0	23	115.0	0	0	5	27	0	32	82.1	0	0	10	26	0	36	42.9	
	広幅ダンプ	0	37	17	5	2	61	98.4	0	39	9	5	9	62	92.5	0	51	14	10	4	79	80.6	
	その他	0	7	36	26	0	69	104.5	0	11	38	14	0	63	108.6	0	22	37	15	0	74	110.4	
クックローリ	石油類	0	22	13	12	0	47	66.2	0	30	18	7	0	55	101.9	0	34	48	13	0	95	102.2	
	取付物	0	3	1	0	0	4	133.3	0	5	13	0	0	18	257.1	0	6	0	0	0	6	120.0	
	散水・給水	0	30	31	6	0	67	239.3	0	12	13	17	0	42	79.2	0	5	19	7	0	31	91.2	
	食品	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0	
	その他	0	3	0	0	0	3	37.5	0	4	0	0	0	4	50.0	0	5	1	2	0	8	114.3	
高圧ガス クックローリ	LPG	0	2	2	0	0	4	40.0	0	2	3	0	0	5	62.5	0	8	4	0	0	12	85.7	
	その他	0	1	0	0	0	1	100.0	0	4	0	0	0	4	400.0	0	3	0	0	0	3	60.0	
トラックミキサ車	アジター	0	148	34	1	0	183	100.5	0	170	22	0	0	192	81.7	0	169	39	1	0	209	66.1	
	ドライ	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0	
	その他	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0	
粉粒体運搬車	飼料	0	10	1	0	0	11	68.8	0	13	6	0	0	19	111.8	0	24	7	0	0	31	124.0	
	バラセメント	0	32	0	0	0	32	91.1	0	47	1	0	0	48	109.1	0	56	0	0	0	56	98.2	
	その他	0	6	0	0	0	6	600.0	0	3	0	0	0	3	150.0	0	5	0	0	0	5	100.0	
消防車	消防ポンプ車	0	0	50	0	0	50	79.4	0	0	43	20	0	63	88.7	0	0	87	13	0	100	178.6	
	梯子消防車	0	4	0	0	0	4	44.4	0	10	2	0	0	12	75.0	0	11	3	0	0	14	100.0	
	化学消防車	0	3	5	0	0	8	200.0	0	1	6	0	0	7	100.0	0	3	3	0	0	6	50.0	
	消防タンク車	0	0	8	0	0	8	66.7	0	0	14	0	0	14	73.7	0	0	12	0	0	12	66.7	
	消防指揮・指導車	0	0	2	9	0	11	—	0	0	0	4	0	4	133.3	0	0	1	0	0	1	25.0	
	その他	0	3	0	0	0	3	33.3	0	13	5	0	0	18	225.0	0	4	0	0	0	4	57.1	
コンクリート ポンプ車	ブームつき	0	7	7	0	0	14	100.0	0	12	9	0	0	21	110.5	0	16	13	0	0	29	107.4	
	ブームなし	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	1	0	0	0	1	—	
	その他	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0	
環境衛生車	じん芥巾機械式	0	35	162	190	0	387	112.5	0	20	186	236	0	441	124.6	0	44	288	305	0	637	104.6	
	じん芥ダンプ車(深威)	0	0	0	0	0	0	100.0	0	0	0	0	0	0	100.0	0	0	0	1	12	13	325.0	
	衛生車	0	8	36	29	0	73	97.3	0	9	53	38	0	100	117.6	0	11	76	30	0	117	114.7	
	清掃車	0	17	22	0	0	39	150.0	0	18	18	3	0	39	105.4	0	23	21	2	0	46	65.7	
	路面清掃車	0	4	0	4	0	8	100.0	0	7	1	4	0	12	120.0	0	4	7	0	0	11	122.2	
	その他	0	1	2	0	0	3	—	0	1	0	0	0	1	33.3	0	6	9	2	0	17	242.9	
その他	トラッククレーン	7	1	0	0	0	8	100.0	11	2	0	0	0	13	144.4	9	2	0	0	0	11	157.1	
	高所作業車	0	0	16	303	0	319	81.6	0	0	17	320	0	337	74.2	0	8	12	280	0	300	49.7	
	空港用作業車	0	4	0	5	0	9	130.0	0	6	5	4	0	15	115.4	0	3	0	0	0	3	11.5	
	道路作業車	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	1	0	0	1	—	
	観音ダンプ式	0	33	67	17	1	118	100.9	0	51	85	27	0	163	130.4	0	60	105	27	1	193	76.0	
	コンテナ車(==)	0	73	537	140	1	751	82.4	0	69	674	93	1	737	82.5	0	118	827	202	3	1,150	99.0	
	機械式	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0	
	テールゲートリフト	0	9	94	294	10	407	87.5	0	13	120	409	23	565	79.0	0	14	124	457	15	610	79.6	
	(v)	0	40	268	937	238	1,483	114.6	0	79	430	1,177	265	1,951	110.5	0	64	300	1,234	252	1,850	95.6	
	除雪車	0	13	0	2	0	15	1,500.0	0	2	0	0	0	2	100.0	0	3	0	0	0	3	150.0	
	クレーン付トラック	0	64	223	131	0	418	83.8	0	75	267	176	0	518	99.2	0	87	351	198	0	636	89.8	
	(s)	0	51	197	181	0	429	91.1	0	55	352	203	5	615	108.5	0	39	338	209	0	586	66.7	
	穴掘り車	0	0	15	10	0	25	227.3	0	0	13	14	0	27	135.0	0	0	21	9	0	30	157.9	
レッカー車	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	1	0	1	—	0	0	0	0	0	0	0.0		
その他	0	14	8	1	0	23	22.5	0	14	3	8	0	25	20.5	0	16	1	4	0	21	19.3		
合 計		7	1,071	1,427	2,132	232	4,869	91.5	11	1,261	1,764	2,550	378	5,964	88.6	9	1,427	2,042	2,841	309	6,668	81.3	
対前年同月比(%)		70.0	93.1	97.0	83.8	156.8	91.5		110.0	91.6	88.8	82.4	141.0	88.6		60.0	86.2	80.0	79.8	84.4	81.3		

(注) *印は基置だけを生産販売した車です。
**印はダンプ式視察車のコンテナの数です。

特種車体 2008 年 1 月～3 月 生産台数

車 種		1 月										2 月										3 月										《単位:台》																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
		大型		中 型		ライト		小 型		乗用車	軽	合 計	大型		中 型		ライト		小 型		乗用車	軽	合 計	大型		中 型		ライト		小 型			乗用車	軽	合 計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
		トラック	バス	トラック	バス	トラック	バス	トラック	バス				トラック	バス	トラック	バス	トラック	バス	トラック	バス				トラック	バス	トラック	バス	トラック	バス	トラック	バス					トラック	バス	トラック	バス	トラック	バス	トラック	バス	トラック	バス																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
用 途	車 種	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	4	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	2	0	2	0	1	0	1	1	0	0	3	2	0	2	0	1	0	0	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
医 療	救急及び救急搬送用車	4	1	0	1	0	0	0	0	0	0	6	9	3	0	0	0	0	0	0	0	0	12	7	7	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

バン型車体 2008 年度 1 月～3 月 生産台数

		(単位:台)																				同対 月前 比年 (%)	
材 質	車 の 大 き さ	スチール製					アルミ製					FRP製					合 計						
		大 型	中 型	小 型	軽	小 計	大 型	中 型	小 型	軽	小 計	大 型	中 型	小 型	軽	小 計	大 型	中 型	小 型	軽	合 計		
用 途		大 型	中 型	小 型	軽	小 計	大 型	中 型	小 型	軽	小 計	大 型	中 型	小 型	軽	小 計	大 型	中 型	小 型	軽	合 計		
1 月	ドライバン	0	2	0	0	2	49	231	1,148	7	1,435	0	0	0	0	0	49	233	1,148	7	1,437	86.6	
	冷凍車	機械式	0	0	38	3	41	71	186	242	34	533	12	169	140	31	352	83	355	420	68	926	96.8
		密冷式	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5	0	0	5	0	5	71.4
		小計	0	0	38	3	41	71	186	242	34	533	12	169	145	31	357	83	355	425	68	931	96.6
	保冷車	0	0	7	0	7	10	50	136	10	206	2	4	39	0	45	12	54	182	10	258	80.9	
	オープンバン	0	0	0	0	0	0	17	28	0	45	0	0	0	2	2	0	17	28	2	47	109.3	
	ウイング	ドライ	0	1	0	0	1	705	721	68	0	1,494	0	0	0	0	0	705	722	68	0	1,495	121.9
		冷凍(機械式)	0	0	0	0	0	45	21	0	0	66	0	0	0	0	0	45	21	0	0	66	75.9
		小計	0	1	0	0	1	750	742	68	0	1,560	0	0	0	0	0	750	743	68	0	1,561	118.9
	ウォークスルーバン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
	ボトル運搬車	0	0	5	0	5	0	116	61	0	177	0	0	0	0	0	0	116	66	0	182	—	
	その他	0	0	0	0	0	2	0	15	0	17	0	0	0	0	0	2	0	15	0	17	170.0	
	合 計	0	3	50	3	56	882	1,342	1,698	51	3,973	14	173	184	33	404	896	1,518	1,932	87	4,433	102.9	
	対前年同月比(%)	0.0	—	113.6	60.0	114.3	96.2	134.1	89.2	113.3	102.7	73.7	112.3	107.0	70.2	103.1	95.7	131.4	91.1	89.7	102.9		

2月	ドライバン		0	0	1	0	1	119	321	2,064	18	2,522	0	0	1	0	1	119	321	2,066	18	2,524	97.8	
	冷凍車	機械式		0	0	35	5	40	93	287	238	44	662	18	237	231	14	500	111	524	504	63	1,202	94.9
		差冷式		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	12	0	0	12	0	12	133.3
	小計		0	0	35	5	40	93	287	238	44	662	18	237	243	14	512	111	524	516	63	1,214	95.2	
	保冷車		0	0	7	0	7	21	48	213	9	291	1	2	29	2	34	22	50	249	11	332	82.4	
	オープンバン		0	0	0	0	0	2	11	24	0	37	0	0	0	0	0	2	11	24	0	37	54.4	
	ウイング	ドライ		1	2	0	0	3	921	771	87	0	1,779	0	0	0	0	0	922	773	87	0	1,782	93.8
		冷凍（機械式）		0	0	0	0	0	78	29	1	0	108	0	0	0	0	0	78	29	1	0	108	100.9
		小計		1	2	0	0	3	999	800	88	0	1,887	0	0	0	0	0	1,000	802	88	0	1,890	94.2
	ウォークスルーバン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	ボトル運搬車		0	0	5	0	5	0	151	61	0	212	0	0	0	0	0	0	151	66	0	217	—	
	その他		0	0	0	0	0	1	1	11	0	13	0	0	0	0	0	1	1	11	0	13	76.5	
	合 計		1	2	48	5	56	1,235	1,619	2,699	71	5,624	18	239	273	16	547	1,255	1,660	3,020	92	6,227	98.1	
	対前年同月比(%)		0.0	—	64.6	62.5	71.8	91.4	115.4	97.3	106.0	100.5	126.7	73.8	100.4	23.9	80.7	91.9	107.7	97.0	64.8	98.1		

3 月	ドライバン		0	0	1	0	1	129	346	1,790	24	2,289	0	0	0	0	0	129	346	1,791	24	2,290	80.4
	冷凍車	機械式	0	0	77	6	83	137	339	268	45	789	13	298	261	12	584	150	637	606	63	1,456	91.7
		蓄冷式	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	0	0	3	0	3	20.0
	小計		0	0	77	6	83	137	339	268	45	789	13	298	264	12	587	150	637	609	63	1,459	91.1
	保冷車		0	0	11	1	12	21	95	253	8	377	4	11	35	7	57	25	106	299	16	446	87.1
	オープンバン		0	0	0	0	0	5	25	40	0	70	0	0	0	0	0	5	25	40	0	70	125.0
	ウイング	ドライ	9	1	0	0	10	1,019	902	114	0	2,035	0	0	0	0	0	1,028	903	114	0	2,045	82.9
		冷凍（機械式）	0	0	0	0	0	114	40	1	0	155	0	0	0	0	0	114	40	1	0	155	79.5
		小計	9	1	0	0	10	1,133	942	115	0	2,190	0	0	0	0	0	1,142	943	115	0	2,200	82.6
	ウォークスルーバン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	ボトル運搬車		0	0	13	0	13	0	188	118	0	306	0	0	0	0	0	0	188	131	0	319	—
	その他		0	0	0	0	0	0	1	15	0	16	0	0	0	0	0	0	1	15	0	16	69.6
	合 計		9	1	102	7	119	1,425	1,936	2,599	77	6,037	17	309	299	19	644	1,451	2,246	3,000	103	6,800	88.3
	対前年同月比(%)		0.0	—	110.9	87.5	117.8	75.3	106.0	84.6	96.3	87.9	68.0	106.2	79.5	47.5	88.0	75.7	106.1	84.7	80.5	88.3	

※「ボトル運搬車」をトラック車体集計表からバン型車集計表に移動（現在ボトルカーの車型はバン型車であるため）

バス車体 2008 年 1 月～3 月 生産台数

		(単位:台)																				
用 途		1 月							2 月							3 月						
		大型	中型	小型Ⅰ	小型Ⅱ	マイクロ	合 計	対前年 同月比(%)	大型	中型	小型Ⅰ	小型Ⅱ	マイクロ	合 計	対前年 同月比(%)	大型	中型	小型Ⅰ	小型Ⅱ	マイクロ	合 計	対前年 同月比(%)
係 準	乗 合	192	56	0	33	0	281	104.1	175	63	0	35	0	273	99.6	134	34	0	25	0	193	89.8
	貸 切	4	9	0	7	0	20	105.3	6	8	0	6	0	20	60.6	23	5	0	0	0	28	51.9
	自家用	16	41	0	380	3,716	4,153	691.0	34	57	0	535	5,046	5,672	580.0	40	112	0	683	5,610	6,445	641.9
	幼 児			0	20	10	30	90.8			0	69	13	82	78.8			0	96	15	111	166.1
ハイデッカ	乗 合	53	0	0	0		53	331.3	34	0	0	0		34	60.7	30	0	0	0		30	58.8
	貸 切	60	0	0	0		60	76.9	128	0	0	0		128	143.8	93	0	0	0		93	86.9
	自家用	6	0	0	0		6	600.0	0	0	0	0		0	0.0	0	0	0	0		0	0.0
スーパー ハイデッカ	乗 合	0	0	0	0		0	0.0	1	0	0	0		1	25.0	3	0	0	0		3	75.0
	貸 切	15	0	0	0		15	100.0	34	0	0	0		34	154.5	37	0	0	0		37	119.4
	自家用	0	0	0	0		0	0.0	0	0	0	0		0	0.0	0	0	0	0		0	0.0
ダブルデッカ	乗 合	0	0	0	0		0	0.0	1	0	0	0		1	—	0	0	0	0		0	0.0
	貸 切	0	0	0	0		0	0.0	0	0	0	0		0	0.0	0	0	0	0		0	0.0
	自家用	0	0	0	0		0	0.0	0	0	0	0		0	0.0	0	0	0	0		0	0.0
国 内 向 計		346	106	0	420	3,716	4,588	457.0	413	128	0	576	5,046	6,163	422.1	360	151	0	708	5,610	6,829	465.8
輸 出 向		0	0	0	1,995	5,299	7,294	129.1	0	0	0	2,271	5,962	8,233	157.1	0	0	0	2,171	4,930	7,101	125.4
合 計		346	106	0	2,415	9,015	11,882	178.6	413	128	0	2,847	11,008	14,396	214.8	360	151	0	2,879	10,540	13,930	195.4
対前年同月比(%)		104.5	100.0	0.0	129.6	207.6	178.6		93.9	170.7	0.0	126.8	279.7	214.8		90.0	191.1	0.0	115.8	254.2	195.4	

トラック車体 2007 年度 生産台数

(単位:台)

用途別		車の大きさ		大型	中型	小型	軽	合計	対前年比 (%)
運 転 台	普 通			437	1,252	56,187	0	57,876	58.4
	特 殊			724	133	64,262	0	65,119	110.4
合 計				1,161	1,385	120,449	0	122,995	77.8
対 前 年 比 (%)				14.9	13.9	85.8	0.0	77.8	

普 通	標準型(シヤシメーカ標準車)		65	3,241	34,833	0	38,139	102.0	
	普通型あり (450mm以下)	アルミブロック	680	1,027	129	1	1,837	85.6	
		スタンダード(木製)	369	2,582	207	1	3,159	101.4	
		その他(スチール、コルゲート等)	49	8	76	0	133	9.7	
	深あり	アルミブロック	1,477	1,608	397	0	3,482	78.7	
		スタンダード(木製)	120	222	13	0	355	116.8	
		その他(スチール、コルゲート等)	78	13	19	1	111	102.8	
	チップ運搬車		49	0	0	0	49	74.2	
	荷 台 ／ 平 ボ デ ー	車積運搬車	オートバイ積	22	10	47	0	79	254.8
			1台積	15	364	2,003	0	2,382	78.0
2台積			2	125	65	0	192	111.0	
3台積			41	54	6	0	101	68.7	
4台積以上			187	1	2	0	190	68.6	
平 ボ デ ー	車積運搬用 トラック	セミトラック	77	0	0	0	77	84.6	
		フルトラック	15	0	0	0	15	214.3	
	産業機械 運搬車	車輛傾斜式	400	34	1	0	435	71.4	
		荷台スライド式	378	124	12	0	514	87.7	
		その他	105	5	6	0	116	98.3	
		家畜運搬車	7	11	1	0	19	100.0	
	側面開放車 (視製)	ハネ上げ式	417	847	34	0	1,298	76.2	
		カーテン式	35	40	34	0	109	72.7	
		コンテナ兼用車	26	0	2	0	28	87.5	
		脱着ボデー	32	10	6	0	48	145.5	
その他		95	56	925	20	1,096	97.9		
合 計		4,741	10,382	38,818	23	53,964	94.5		
対 前 年 比 (%)		76.6	83.7	101.0	62.2	94.5			

乗用車及び商用車車体 2007 年度 生産台数

車 種		台 数	対前年比 (%)
乗用車	セダンタイプ	764,908	95.3
	ステーションワゴン	656,777	115.6
	ミニバンタイプ	58,833	66.7
	オフロードタイプ	371,646	110.5
	キャブオーバータイプ	307,173	90.6
	その他	0	0.0
商用車	ツーボックスバン	48,521	148.1
	キャブオーバーバン	169,887	113.1
	キャブオーバートラック	0	0.0
	ボンネットトラック(シングルキャブ)	21,999	118.9
	ボンネットトラック(ダブルキャブ)	59,272	113.3
	その他	0	0.0
合 計		2,459,016	103.0

特装車体 2007 年度 生産台数

車 種		基準外	大型	中型	小型	軽	合 計	対前年比 (%)
ダンプ車	リヤダンプ	0	7,370	8,664	14,543	3,088	33,665	82.2
	三転ダンプ	0	1	193	489	0	683	69.6
	保偏ダンプ	0	763	126	90	30	1,015	104.6
	その他	0	157	499	195	10	861	48.2
タンクローリー	石油類	0	487	524	224	0	1,235	80.3
	毒劇物	0	63	16	0	0	79	101.3
	散水・給水	0	303	361	90	0	754	111.7
	食品	0	4	0	0	0	4	57.1
	その他	0	51	2	3	0	56	76.7
高圧ガス	LPG	0	91	66	0	0	157	71.4
タンクローリー	その他	0	22	0	0	0	23	115.8
トラックミキサー	アジテータ	0	2,081	373	42	0	2,496	83.3
	ドライ	0	0	0	0	0	0	0.0
	その他	0	0	0	0	0	0	0.0
粉粒体運搬車	飼料	0	215	37	1	0	253	97.3
	バセメント	0	492	3	0	0	495	100.6
	その他	0	57	0	0	0	57	101.8
消防車	消防ポンプ車	0	0	436	53	0	489	111.6
	梯子消防車	0	40	9	0	0	49	75.4
	化学消防車	6	12	26	0	0	44	77.2
	消防タンク車	0	0	69	0	0	69	80.3
	消防指揮・指導車	0	0	3	29	0	32	200.0
	その他	0	32	9	11	0	52	91.2
コンクリートポンプ車	ブームつき	0	131	104	6	0	241	94.1
	ブームなし	0	2	0	0	0	2	200.0
	その他	0	0	0	0	0	0	0.0
環境衛生車	じん芥車機換式	9	333	2,378	2,631	0	5,351	103.3
	じん芥タンク車(保偏)	0	0	1	14	66	81	96.4
	衛生車	0	80	665	384	0	1,129	93.0
	清掃車	0	243	230	38	0	511	93.4
	積り清掃車	0	56	24	23	0	103	98.1
	その他	0	37	35	12	0	84	147.4
その他	トラッククレーン	75	12	2	0	0	89	63.0
	高所作業車	0	18	230	4,478	0	4,726	93.6
	変換用作業車	4	88	9	41	0	142	89.7
	道路作業車	0	0	3	2	0	5	—
	観音コナナ車	ダンプ式	0	523	960	262	1,745	83.9
		(**)	0	1,068	8,651	1,730	11,459	89.6
		機械式	0	0	0	0	0	0.0
	テールゲートリフト	(*)	0	126	1,282	4,678	6,291	65.7
		(*)	0	435	3,820	13,250	17,505	100.2
	除雪車	0	276	5	2	0	283	132.5
	クレーン付トラック	(*)	5	973	3,227	2,325	6,530	86.3
		(*)	0	712	3,446	2,742	6,905	84.1
	穴掘建柱車	0	0	140	199	0	339	181.3
	レッカー車	0	1	3	1	0	5	125.0
	その他	0	221	34	137	3	395	32.3
合 計		99	15,361	28,750	31,603	3,418	70,631	82.5
対 前 年 比 (%)		61.1	91.1	80.4	79.0	98.2	82.5	

(注) * 印は装置だけを生産販売した数です。
* * 印はダンプ式観音車のコンテナの数です。

(単位: 台)										
マ 型		ライト		小 型		乗用車	軽	合 計	対前年比 (%)	
トラック	バス	トラック	バス	トラック	バス					
0	11	2	1	4	1	2	0	33	40.2	
15	6	2	0	0	0	0	0	71	119.9	
3	1	0	0	0	0	0	0	4	44.4	
1	3	0	0	1	0	0	0	5	29.4	
1	3	2	0	3	0	0	0	10	40.0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
5	0	10	0	0	0	0	0	15	57.7	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
0	1	0	0	0	0	0	0	3	33.3	
0	0	0	0	1	0	5	3	9	40.9	
0	0	1	0	100	0	674	4,414	5,190	89.9	
0	0	0	0	0	0	204	0	253	103.7	
0	0	0	0	0	2	5	0	12	60.0	
0	0	0	0	0	0	1	95	96	76.2	
0	0	0	0	91	0	312	0	403	159.9	
0	0	0	0	513	0	1	0	514	95.6	
0	0	0	0	1	0	0	0	1	100.0	
0	1	0	0	0	0	31	2	33	269.2	
0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.0	
12	0	0	1	75	29	403	2,406	3,992	100.2	
0	0	0	0	0	0	51	1,692	1,653	166.1	
0	0	2	0	3	0	10	0	15	300.0	
0	1	0	1	11	9	56	16	97	71.9	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
0	2	0	0	11	4	11	63	116	71.2	
0	1	0	15	0	0	0	0	16	88.0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
0	5	0	0	0	0	0	0	5	250.0	
0	0	0	0	0	1	5	0	6	75.0	
0	0	1	0	0	0	0	20	30	375.0	
0	1	0	4	0	5	27	0	37	82.2	
0	0	0	1	0	0	3	9	13	185.7	
0	0	0	0	0	2	9	0	10	92.8	
0	4	0	6	1	0	35	114	163	112.4	
0	0	0	0	0	2	1	0	3	-	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
0	0	0	0	0	0	0	8	8	53.3	
0	18	0	0	0	0	3	0	21	1,050.0	
0	0	0	1	1	3	0	0	5	12.5	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
0	0	0	0	0	8	0	0	8	-	
0	0	0	4	0	1	2	71	80	66.1	
0	3	0	0	27	1	20	11	62	114.8	
0	0	0	0	0	3	0	5	13	162.5	
0	0	0	0	2	0	0	0	2	200.0	
0	0	0	1	9	0	0	0	10	1,000.0	
0	0	0	0	0	0	3	0	3	-	
1	0	0	0	0	3	0	0	4	29.6	
0	0	0	1	5	0	0	0	10	61.3	
0	0	0	5	10	1	4	0	55	196.4	
0	0	0	0	13	0	2	0	15	98.2	
0	0	0	0	1	0	2	0	3	300.0	
0	0	0	0	6	0	0	5	12	600.0	
0	0	0	0	1	0	0	0	2	66.7	
1	0	0	1	1	2	1	2	17	109.0	
0	0	0	0	0	1	0	0	1	-	
0	4									

フル製		フル製					FRP製					合 計					対前年比 (%)	
小計	軽	小計	大型	中型	小型	軽	小計	大型	中型	小型	軽	小計	大型	中型	小型	軽		合計
7	0	12	1,993	3,019	17,001	202	22,215	0	0	1	0	1	1,993	3,024	17,009	203	22,228	83.3
725	54	779	1,126	3,266	3,465	450	8,317	169	2,657	2,469	373	5,640	1,295	5,923	6,659	887	14,764	81.9
0	0	1	5	3	3	0	11	0	5	74	0	80	6	8	81	0	95	79.2
725	54	780	1,131	3,269	3,468	450	8,320	169	2,662	2,517	373	5,751	1,301	5,931	6,740	887	14,859	84.9
81	10	91	235	751	2,749	144	3,879	56	58	451	44	609	291	806	3,281	196	4,570	87.9
0	0	2	33	126	317	15	491	0	0	1	54	55	33	126	316	69	540	79.5
0	0	24	10,934	8,655	1,097	2	20,688	/	/	/	/	/	10,948	8,666	1,097	2	20,712	91.4
0	0	0	901	380	5	1	1,287	/	/	/	/	/	901	380	5	1	1,287	81.5
0	0	24	11,833	9,035	1,102	3	21,975	/	/	/	/	/	11,849	9,045	1,102	3	21,999	90.7
1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	100.0
70	0	70	0	1,594	908	0	2,502	0	0	0	0	0	0	1,594	976	0	2,572	-
2	0	2	19	12	142	0	173	0	0	0	0	0	19	12	144	0	175	81.6
886	64	950	15,246	17,806	25,687	824	59,563	225	2,720	3,000	471	6,416	15,486	20,543	29,572	1,359	66,961	89.8
93.9	74.4	94.9	93.8	96.0	85.8	78.9	90.6	72.8	90.4	84.7	53.6	82.9	93.5	95.3	85.9	68.2	89.8	

大 型	中 型	小 型 I	小 型 II	マイクロ	合 計	対前年比(%)
2,079	587	24	288	0	2,978	104.6
54	63	74	80	0	271	72.1
272	569	2	5,019	47,724	53,586	624.5
		1	390	68	459	74.6
344	0	0	0		344	92.2
1,003	0	0	0		1,003	100.5
15	0	0	0		15	107.1
20	0	0	0		20	45.5
268	0	0	0		268	110.3
0	0	0	0		0	0.0
2	0	0	0		2	—
0	0	0	0		0	0.0
0	0	0	0		0	0.0
4,057	1,219	100	5,387	47,724	58,487	433.9
0	0	0	22,828	61,755	84,583	130.5
4,057	1,219	100	28,215	109,479	143,070	182.7
98.5	103.2	98.0	118.1	223.4	182.7	

外	バン			コンテナ用			クック					ダント プレーラ	ポール	車載用		フルト レーラ	その他	合 計	対前 年比 (%)			
	役付	ドライ	冷凍	側面開放	20*	40*	その他	石油類	粉粒体 セメント	飼料	高压ガス			ミル食品	その他					セ レ ーラ	フル レーラ	
2軸	3	110	164	99	1,218	1,582	1,345	229	168	152	52	22	3	3	177	8	304	0	107	20	8,165	109.9
			0		0		0							0	0	0	0	0	0	0	1	12.5
			0		12		0							0	0	0	0	0	1	27	150.0	
			1,481		3,168		400							177	8	304		107	21	8,193	109.9	
			103.9		131.5		99.3							136.2	42.1	95.0		83.6	61.8	109.9		



編集後記

ここ半年間、いろいろと紆余曲折のあった道路特定財源が、最悪の方向に進みつつある。「暫定税率はそのまま一般財源化」という論理の通らない、詐欺まがいのことをやろうという。

とは言っても、現段階ではまだまだ未決定部分が多く、閣議決定の基本方針書も玉虫色でどのような解釈も出来る文面である。今後とも注目していくとともに、納税者と受益者との公平感という観点でわれわれとしてもいろいろな活動が必要と思う。

また6月からはガソリン価格が175円/ℓにも

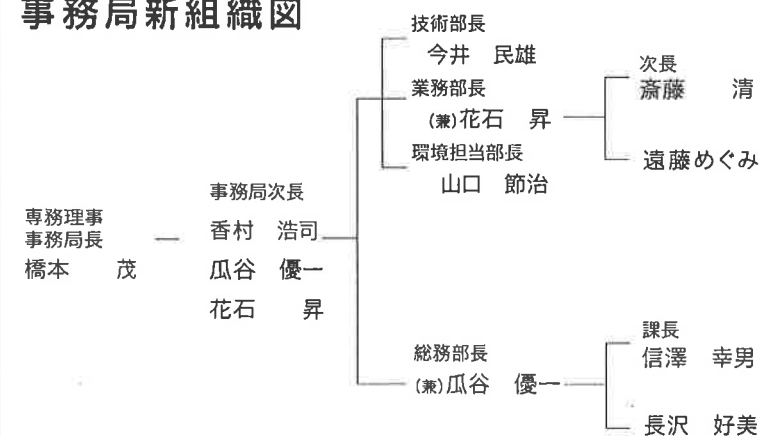
上がったが、暫定税率廃止で4月だけは125円/ℓだった。1カ月間の功罪はいろいろあるが少なくとも社会全体に道路特定財源や暫定税率を認知させることには寄与したと思う。

今号の特集は通常総会の内容だが、今年度から総会での説明方法を変更した。参加いただいた会員の皆様にとって有意義になるよう、グラフや写真でわかりやすく年度の特徴点や環境変化をパワーポイントにて説明することにした。

好評など意見を多くいただいたが、まだまだ改善すべき点も多いと思うので、改善要望等をお寄せいただければ幸いである。

(橋本)

事務局新組織図



新任挨拶

事務局次長
香村 浩司



本年5月より当会事務局へ赴任し、環境委員会と60年記念車体産業史編集を主体にトレーラ部会・トラック部会・バン部会補佐を担当させていただきます。

自動車車体工業の発展のために精励いたす所存でございます。今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

■表紙写真について

「AD」

日産車体(株) 製

ビジネスシーンで圧倒的な使いやすさを実現。運転席周りにはノートパソコンが楽に操作できる折畳式テーブルなど実用性に優れた装備や多彩な収納スペースを設定。

また、広いバックドア開口と低いフロア高が、荷物の積降しを容易にすると共に、クラストップレベルの荷室長/高/ホイールハウス間寸法はより多くの荷物を積めるスペースを実現。仕事の効率をアップし、更なるビジネスの拡大をサポートします。

この会報「車体 NEWS」は、主として自動車車体にかかわる法令改正等の動きを情報としてとりまとめ、春、夏、秋、冬の4回、季刊発行により関係方面の方々に毎回およそ1,500部を送付させていただいております。

送付先は当工業会会員事業所他全国の大型車等の自動車販社、各都道府県のバス、トラック協会、バス、トラックの大手ユーザー、全国の経済産業局、運輸局、運輸支局、自動車検査(独)検査部・事務所、日本自動車車体整備協同組合連合会、軽自動車検査協会および自動車関係団体となっております。

広告掲載会社

株式会社花見台自動車	44
住友スリーエム株式会社	45
株式会社損保ジャパン	表3
交通エコロジー・モビリティ財団	表4

車体 NEWS 夏号 2008

2008年6月20日発行

発行所 社団法人 日本自動車車体工業会

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30

TEL 03-3578-1681

FAX 03-3578-1684

発行人 橋本 茂

制作 NICS